

始

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

小倉進平教授講述

言語學概論

昭和十一年度東大講義

〔第一分冊〕

東京プリント刊行會版



總論	1
第一節 言語學	1
第二節 言語トハ何ゾ	4
第一章 言語研究ノ背景及心	
研究方法	7
A. 哲學的研究	15
論理學	22
B. 心理學的研究	24
C. 社會學的研究	26
第二節 特定言語ノ研究	30
歴史的研究法	31
比較的研究	33
音韻論	38
形態論	47
意義論	48
第二章 言語學史 (Phonetic → 主ト シテ述ベル)	48
第一節 印度ノ言語研究	48



第二節	ギリシヤノ言語研究.....	51
第三節	ローマニ於ケル言語研究.....	58
第四節	中世以後、近世初期迄ノ 言語研究.....	61
第五節	サンスクリットノ発見 紹介、ソノ後ノ言語学.....	72
第六節	新言語研究ノ過渡期.....	86
第七節	新言語学ノ発生.....	94

言語学概論

(1)

小倉進平教授講義

概 論

第一節 言語学

言語学トハ言語事象ニ関スル研究ヲ云フノデ、
 コノ名称ハ(言語学) *linguistic* トカ、*Sprach-*
wissenschaft ト云ヒ、フランスデハ *linguis-*
tique ト云ヒ、ソノ他 *glottik* トカ *glotto-*
logy トカノ名ヲ付ス。コレラノ色々ノ名称ト
 同ジイ意味ニ *Philology* ト云フノガ用ヒラレ
 ルコトガアル。然シ、コノ語ハ言語学以外ノ他ノ
 學問ヲ指スコトガアルカラ、コノ語ハ餘リ用ヒナ
 イ。元来 *Philology* ト云フ語ハギリシヤ語ノ
philo logos ヨリ成リ、*philo* ハ愛スル、
logos ハ語或ハ科学トカ、論議ノ意ニ用ヒラレ
 ル。ガ、ソノ内容ハ時代ニヨツテ相違ガアツタガ

(2)

一般 = *Philology* ハ學問ヲ愛スルトカ *dia-*
logue ヲ愛スルトカ、言語歴史ノ研究ノ意味ニ
用ヒラレテ來タ。ソノ後、ソレガ、專ラ、文献ノ
解説ヲ基礎トシテアル時代ノ社会生活ヲ研究スル
意味ニ変ツテ來タ。日本ニ於テモ *Philology* フ
文献學ト称シ、ギリシヤ、ラテン等ノ古代ノ社会
状態ノ研究ヲ目途トシタ。文献學ガ古クカラアツ
タガ、吾國ニモアツタ。本居宣長、平田篤胤。

カクノ如ク *Philology* ハ意味ガアルカラ、色
々ノ學問ト關係アルカラ誤解ガアル。

1. *Philology* ナル語ハ古代ノ文化ノ研究トイ
フコトニ限ラレテキル様ニ考ヘラレ易イノアル
ガ。ソレハ必ズシモ古代ニ限ラナイ。イヤシ
クモ文献ヲ基礎トシテアル社会ノ状態ヲ研究セ
ントスルナラ、如何ナル時代ヲ対象トシテモヨ
イワケデアル。西洋ノアル人、*Böckh* ノ曰ク、
Philology トハ敢ヘテ古代ノ研究ニ止マルモ
ノデハナク、例ヘバダンテ、シエクスピアニツ
イテモ *Philology* ハ成立シ得ルノデアル。
Philology ガ一般ニ古代文化ノ研究デアルト考
ヘラレルニ至ツタノハ、*Philology* ノ第一ノ
対象トスル点ハ近代ノ言語ハ世人ニワカリ易イ

(3)

ガ古代ノ言語ハワカリニクク、ソノ古代ノ言語
ノ研究ニ重キヲオクタメニソノ様ナ考ヘフスル
ニ至ツタ。故ニ、日本デアルナラ平安朝、或ハ
徳川時代ヲ対象トシタ *Philology* ハ成立シ得
ル。要スルニ、*Philology* トハアル社会、人
類全体ノ研究デアルト云ヘル。

2. 文献學ハ個人ノ時代ノ文献ニ土台ヲオキ、ソ
レゾレノ社会ヲ研究スルノデアルカラ、次第ト
深イ關係ガアル。然シ、歴史ハ歴史、事實ヲ根
拠トシテアルガ、*Philology* ハサニアラズ
專ラ言語研究ヲ主トスル。本来ハ何レモ相俟ツ
テ進ムベキデアルガ、ソノ間ノ調和ハトリガタ
イ。歴史家ハ事實ヲ重ンジ、言語ヲ輕視スルガ、
Philology 學者ハ餘リニ歴史ヲ知ラテ傾向ガアル。
3. *Philology* 學者ハ大体ニ於テ言語研究者デアル
ルガ、言語學者デハナイ *Philologist* ハソノ
研究ノ目的トシテ、言語ヲ單ニ方便トシテ研究
シ、ツマリアル時代ノ社会ノ文化ヲ明ラカニス
ルコトヲ目的トスルガ、言語研究者ハ言語ソノ
モノヲ明ラカニセントスル。故ニ、歴史ノ場合
ト同じク *Philologist* ハ言語研究ヲ重ンジ

(4)

相互ノ了解ヲスル場合ガ多イ。

4. *Philology* ノ研究ハ出来ルダケ言語ノ知識ヲ有サネバナラズ。言語研究ハ *Philology* ノ知識ヲモタネバナラズ。関係ガ深い。ソノ証ニ古来文法辞書ヲ書イタ人ハ多クハ *Philologist* デアル。ソレカラ又、*Philology* ガ言語學ト云フ意ニ用ヒラレテキルコトカラモワカル。

第二節 言語トハ何ソ?

言語ノ定義ハ簡單デハナイガ、第一ニ從來ノ有名ナ言語學者ノ定義ヲアゲル。古イガ、ワカリ易イト思フ。

第一ニ、*Henry Sweet* ノ *Language of History* ノ中ニ曰ク、"言語トハ、思想ヲ *speech, sound* ノ手段ニ依テ現ハシタモトスル。換言スレバ、吾々が *idea* ヲ現ハス *sentence* ナ *word* ハ、ソノ *sound* ノ手段ニ依テアル一定ノ形ヲ有シヌ多少ナリトモ一定シタ意味ヲ有サナケレバナラズ。且、勿論身振 *gesture*

(5)

symbol ガ *Phonetic S.* ヨリ明ラカナルコトガアル。ソノ方ガ有利デアルガ、複雑ノ思想ヲ完全ニアラハスコトガ出来ヌ。空間的ノ制限ガアル。" 明暗並ニ依テ左右サル。

Sayce ガ *Introduction to the philology* ノ中ニ定義ヲ次ノ如ク述ブ。即チ、*consisting of 13 modulation of the voice variously combined and arranged, which serve as symbols for the thought or feeling we wish to express.* 尚又我々ノ聽スル音ハ言語トナルベキ前ニハ *meaning* ヲ宿サネバナラヌ。モシ意味ガナケレバ、鳥ヤケガモノノ叫ビト同一デアル。即チ言語ハ思想ノ表現デ我々ノ *mind* ヲ包ム着物デアル。 *outward guard.* 尚我々ノ思想ノ音聲以外ノ *symbol* ナ表ハサレルコトガアル。ソノ最モ精シイモノハ間接ニ思想ヲ *symbolize* スルノデアルガ、ソレハ文字デアル(画ヲ含ム)。尚又、*gesture language* モ亦我々ノ思想ヲアラハス手段デアル。或ハ誇張デアルカモシレヌガ次ノ報告ガアル。*Barton* ガ *Arapahos* 民族ノ言葉ハ少イカラ *gesture* ナ補フガ、モトヨリ夜ニナルト困難デアルト。

Gesture ハ又喜怒ヲ表ハス。又同書ニ、言語トハ人類ニ特有ノモノデ、動物ト區別ヲスル *criterion* デアル。人類ハ實ニ *social animal* デアルガ、社会ハ言語ナシニハ存在スルコトガデキヌト同様ニ言語ニ社会ナシニ存スルコトガデキヌ。言語ハ人間ガ生ズルト同時ニ存シ、文化ノ発達ト共ニ成長スル社会的産物デアル。ト。

Gabelente 曰ク、人類ノ言語ハ *menschlich Sprach ist gegliederte aus des Gedanken durch* 思想ヲ音ニ依テ表ハシタモノデ、ソノ音ヲ調節シタモノガツレデアル。要スルニ、自己ヲ他ニ了解サセヨウトシテ音ヲ用フルノデアルガ、動物ノ現ハス音ハ感情ニスギヌカ。或ハ、極端ニ縮メテレタ音ノカクマリノ表現デアルカラ決シテ分解サレタ (*gliederte*) 思想ヲハナイ。例ヘバ痛ミヲ感ズル時動物ハ自己ノ言語デ *au!* ト云フガ、コレヲ分解デキヌガ、人類ハコレヲ *gliedern* シテ長キ結合シタ單語トスル。 *doles*。

第一章 言語研究ノ背景 及ビ研究方法

総論第一節ニ述ベタ所ハ、言語トハ何デアルカニ対スル從來ノ意見デアルガ、コレヲ大体内容ガワカツタト思フガ、更ニ之ヲ要約スルト次ノ如シ。先ヅ我々ガ言語現象ニツイテ考ヘネバナラヌコトハ、人類ハ言語ナクシテ思惟シ得ルモノデアルカドウカ。又、言語ノ起源ハドンナモノデアルカト云フ問題デアルガ、コノ研究モ行ハレテキル。兎ニ角、次ニ言語ガ我々ノ意志表示ノ手段デアルコトハ少しモ疑ヒノナイコトデ、然シソノ唯一ノ手段ト考ヘルコトハデキヌ。即チ、前述ノ如キ文字、身振り等ハ表示ノ手段デアルコトハ明ラカデアル。

要スルニ、言語ハ猿ト同ジク人類ノ意志表示ノ一手段ニスギヌノデ、意志ガ外ニアテハレタ音聲的記号 *sign* ニスギナイノデアル。シカラバ音聲的記号ガ何故言語ト云フ名称ヲ得タオ、即チ何故ニ音聲ニ依ル言語ヲ以テ言語ノ本質ト考ヘル様ニナツタカト云フニ、ソレニハ理由ガアル。ソレハ即チ前述ノ如ク、文字等ニ比ベルト最モ完全

(8)

ニ我々ノ思想ヲ表ハシ得ルケメデアル。

第一ニ言語ニ於ケル音聲トハ何カ。

発音器官が発せられる音ハ人類ダケニ存スル特長ト称セラレヌ。動物ニモ明ラクニ発音器官デ音ヲ出シ、意志表示ガ出来るノデアル。豚ノ下ヲ、動物ト人類トヲ區別スル標準ハ音聲ニ依ル言語ニアルトサヘサレテキル。ソレハ動物ノ音ハ單ナル叫ビニスギズ。人類ノ言語ハ発音器官デ巧ミニ調節スルト云フ点ニ於テ非常ナ差異ガアルト云ハレテキル。

即チ、人ノ言語ニ於ケル音ガ以上ノ如キ大ナル意味ヲ有スル以上、言語ニ於ケル音聲ガ言語ノ上ニ如何ナル姿ヲ表ハレルカ。又如何ナル形ヲ結合シ合フカト云フ分析的觀察、綜合的觀察ヲ行ハネバナラヌ。即チ音聲ノ研究ヲシナケレバナラヌコト。

以上ノ如ク言語ニ於ケル音聲ガ分析・綜合セラレタニシテモ、ソレダケデハ我々ノ言語ノ研究ガ終ツタト云ヘズ。單ニ分析・綜合ノコト以外ニ言語ノ重大ニ使命ガ残サレテキル。即チ、言語ニ

(9)

於ケル音聲ハ、單ニ各個ノ音ガ任意ニ偶然ニ結合シタト云フコトニ止マルニアラズシテ、ソレガ音色ノ言語(特定ノ)ニ表ハレル場合ニハ、一突ノ音ノ結合ヲ保ツテソノ上ニ一突ノ意義ガ伴フコトガ必要條件ナノデアル。例ヘバ Ka トカ Ki トカ 云フ音ノ結合ガ、單ニ機械的結合(物理的)ト觀察スル時ハ何等ノ意モナイガコレガ日本語ニ用ヒラレタ時ニハ、蚊トカ、瓦ノ意味ガ生ジ、ソコデ始メテ特定ノ日本語トシテノ樹ガアラハレルノデアル。

然レバ如何ナル音ノ結合ニ如何ナル意味ヲ與ヘルカハ、言語社会等ニ依テ一致シナイノデアルガ、ソレゾレノ音ノカタマリハ、各々特定ノ言語ニ於テアル意味ヲ與ヘラレタ word トナリ、固定性ヲ有ツ様ニナル。カクノ如クアル意味ヲ與ヘラレタ以上、語ハ容易ニソノ外形ヲ変ズルコトハナイノデアルガ、事實ハ長イ間ソノ語ガ使ヒ馴ラサレテキル間ニ、ソノ外形、又アル場合ニハソノ内容マデガ変化スルコトガアルノデアル。

カクノ如ク語ハソレ自身ソノ外形ヲ変化サセルガ、ソレノミナラズ、又、ソレガ場合ニ依リソノ Function ノ上ニマデ変化ヲ起スコトガアル。

例へば我々が言語ヲ文法的範疇ヲ區別シ、名詞トカソノ他ノ品詞ニ分類シ、ソノ各々ノ構成・転成ヲ論ズルコトガアルガ、コレヲ範疇ト雖モ、永久ニ変化シナイモノデハナイ。発音ノ転成等名詞ガ助動詞ニ変化シタリシ、絶エズ形ト作用ノ上ノ変化ヲ生ズル。コノ変化發達ノ順序ヲ見ルノガ言語上ノ重要ナ研究ノ一ツデ、コレヲ言語ノ形態的 *morphological* ノ研究ト云フ。

ソレカラ、言語ハ音ト形態ニ於テ変化發達ヲ遂ゲルノデアルガ、内容モ変化スル。語ノ外形ガ元ノモノデソノ内容モ元ノモノデアルノガ多イガ、中ニハ外形ガ元ノ通り内容ダケガ変化ヲオコス例モ多イ。マシテ外形ノ変化ト共ニ内容モ変化スルノガ言語ノ性質ノ常デアルト考ヘラレ易イノハ、如何ニ言語ノ変化ガ急速デアルカヲ証據立テルモノデアル。故ニ言語ヲ内容、意義ノ方面カラ觀察スルコトガ必要ナルノデアル。

以上ニヨリ我々ハ言語研究ノ青果ニニ大分セラレル。即チ

一節、言語ノ本質ノ研究

二節、特殊ノ言語ノ研究

コレヲ更ニ分ケルト

- 1. { 言語ノ哲學的研究
 " 心理學的研究
 " 社會學的研究
- 2. { 音韻論
 形態論
 意義論

等ノ部門ガ設ケラレルト思フ。

尚ソノコトニツイテモ、従来ノ學者ガ研究法ノ部門トシテ如何ナル方法ヲトツクカラニ、三ノ例ヲ説明スル。

Steinthal, Abriss der Sprache (1880)

中ニ、言語學ノ内容ノ分類ヲ次ノ如クシテキル。

- 1. 一般の言語研究
- 2. 特殊 *Besondere* 言語研究

● 1ハ言語ノノモノニ關スル一般的研究デ、2ハ所謂特殊言語ノ事實ヲ研究スルモノデアル。

Gebelentz, Sprache Wissenschaft 中

ニハ、研究ヲ三カシテ

- 1. *die eintern*、個々ノ言語研究

我々ノ語ヲ個々ノ言語ノ本質カラ説明セント

(12)

スルモノ。

2. 系統的、歴史的な研究

コレハ *eintem Sprache* が空間的、時間的ニ、如何ニ分裂シ、如何ニ変遷シテ来タカヲ研究スル部門ナル。

3. 一般言語研究

コレハ種類ノ多イ言語が人類ニ共通ナ能力 *vermüchtig* カヲ、如何ニシテ発達シテ来タモノナルカヲ研究スル部門ナル。

ト説ク。

要スルニ、言語ハ、語ノ一般的性質ニ関スル部分ト、個々ノ言語ノ特徴ニ関スル部分トニツテ大別スルコトが出来ルノナル。

近頃、佛國ノ學氷ニ唱ヘラレヲキル *langage* トスヲ語ト *langue* トノ使用法ノ區別ヲ述ベテ、ソノ區別ヲ述ベテ、ソノ區別ニ相當スルト思ヘル。

次ニ以上ノ二語ヲ説明スル。混同サレル虞レガアル。コノ二語ノ定義ヲ説明シタ人ハ多イ。例ヘバ *marouzeau* 氏ノ *Lexique de la terminologie linguistique* ノ中ニ曰ク：
langage ハ各個人間ノ思想傳達ニ役立つコ

(13)

トノ出来ル凡テノ記号体系ヲ云フ。 *Systeme de signe*。ソレガ般ニ立チサヘスレバ如何ナル記号デモヨイガ。色々ノ感覺器官デ知覺サレ、傳達サレ得ルノゲカラ、色々ノ言語ガ存シ得ル由ナル。

- 1. 目ニウツクヘルモノ *langage visuel*
- 2. 耳 " *langage auditif*
- 3. 嗅覺 " *langage olfactif*
- 4. 觸覺 " *langage tactif*

ソシテ又コレヲノアル種ノモノガ結合シテ、複雑ナ *langage* ヲ考ヘルコトが出来ルト。

langage ハアルーツノ *group = limit* セラレタ所ノ特殊トモノ *langage particulière* ヲ云フト。ソレ故我々が *langage* ヲ云ヒテラハス時ニハ、*langage humain* ノ如ク廣ク用ヒラレルガ、(ex. *langage française*)

langue ハ個々ノモノヲ指シタ。哲學的意味ノモノヲ云ヒ、*langue* ハ個々ノ音聲ヲ傳ヘラレルモノナル。コノ區別モ一般ト特殊トニ基クモノナル。

尚、佛國ノ *Vendryes* ニ依ルト

Langage est l'ensemble des procedes

(14)

physiologiques et psychique dont l'être humain dispose pour parler, tandis que le langage representen utilisation pratique de ce procédé.

langage ハ言語活動ノ総計デアルガ。langue ハ具体化サレテ実用的ナモノデアレバナラヌ。又 Henry Delacroix 曰ク。

langue ハ一ツノ idea デアルト云フコトハデキヤウガ。然レソレハモット一般的ナ idea。即チ langage ソノモノノ表ハレデアル。即チ。langue ハ langage ナル更ニ大キナ scheme ノ上ニアラハレタ経験的・歴史的変形 une variation historique デアル。ソレデ langue ハソレゾレ形ヲトツテ絶エズ発展スルノデアルガ。ソノ際ニハ必ズ一カニ。langage ノ中ニ内在スル法則ト一般形式 form general ニ依ヒ。ス一カニ依テハ。langue トシテ。一定ノ形式ヲ作ル形式ニモ依ツノデアル。即チ langage ガ根本トナリ。ソノ中心トシテ。遠ツタ色々ノ langue ガ成立スル性質ノモノデアル。要スルニ langage ハ言語ノ本質ヲ論ズルモノデアル。

(15)

前、Steinthal ガ allgemeine ト稱シタモノデ。langue ハ個々ノ特定ノ語 Besondere Sprache ト云ヘル。序デニ述ベルガ。佛語ノ langage ノ如クコノ系統ノ語ノアル國ト無イ國トガアル。

Spain lenguaji langue
Italy linguaggio (lange) lingua.
Portugue linguagem

英独共ニ。兩者ヲ一語 language, Sprache デ表ハレテキル。

佛ノ學者中ニハ。langue ト langage ノ區別ヲヤカマシク云ツテキルガ。相當古クカラ。區別シタ人ガアツタ。1851年 Cournot。

以上ノ分類ニ依ヒ。我々ハ先ツ言語ノ本質ニ關スルコトヲ研究スル。コノ本質ニ關シテ。イロイロ論ズベキモノガアルガ。前述ノ如ク。哲學的・社会的・心理的ノ研究ヲ略述スル。

A. 哲學的研究

昔印度ニ行ハレタ言語研究ハ。言語ノ組織・ツマリ文法ト云フ様ニ方面ニ著レイ発達ヲ遂ゲクガ。一方 Greek ニ依テハ言語ノ哲學的研究ト云フ方

(16)

向 = 向ケラレ、兩者ハ contrast シテキク。兩者ノ精實ヲアラハシテキルヲケデアル。

Greekノ哲學者ハ、言語 = 論及シテ最モ著シイモノハ、言語ノ起源 = 關スルモノヤ、Θέβελ (convention) ヲ、Φύβελ (nature) = 人定ヤ自然、= 關スルモノデ、即チ、言語ト云フモノハ、命名ナレル事物ノ本性ノ如何 = 拘ラズ單 = 事物ノ符号トシテ任意 = 設ケラレタモノデアルトカ (因果關係ガナイ = 人定)、或ハ又命名ナレル事物ノ本性 = 基キ、必然的 = 定マツタモノデアルト云フニツノ問題ガアツタ。コノ問題 = 關シ、ギリシヤ哲學者ノ説ハ二分シ、

人定ヲ主張スル人ハ *anomalist*、

自然ヲ *analogist*

ト稱シ、コノ中 = 能エズ烈シイ論争ガアツタ。ソノ後、自然、人定ノ意味ノ上 = ハ変化ガアツタガ論争ハ抜マデ続イタ。

言語學ガ人文科學デアルカ、自然科學デアルカノ問題ガ起ツタノモ、コノ人定、自然ノ思想 = 基クノデアル。而シテコレヲ自然デアルト云フ人ガアルガ、ソレラノ中 = モ、イロイロ異ナル内容ガ含マレテキル、ツマリ神ガ言語ヲ人間 = 與ヘタト

(17)

考ヘル者 (Platon) ヤ、言語ハ人類ノ心ノ衝キノ中 = 先天的 = 存在スル理性ノ表ハレニスギナイト考ヘルモノ (Fumbolt)、又ハ人定ノ方ノ中ニモ、内容上差異ガアル。即チ、我々ノ意志 = ヨリ、積極的、有意的 = 言語ヲ作り出シタモノデアルト考ヘル人、又一方 = 言語ハ人類ガ出發シタ初期 = 於テ、反射的 = 發シタ叫声カラ發達シタモノデアルト考ヘル人モアル。自然ノ方モ研究スベキデアアルガ、今ハ人定ノ場合 = ツイテ説明スル。然シ、コレモイロイロノ場合ガアル。

人定ト考ヘラレル起源説。

(1) 物ノ音ヲ真似テ作ル所ノ音ノカタマリカラ起ツタトスル説。

Onomato Poeticノ考ヘガデアアル。例ヘバ埃吉利、真似ヲ作ツタ名。コノ様ナ点 = ツイテハ、カナリ古クカラ説カレタ。哲學者ノ Herderガ起源 = 關シテ曰ク、

“人類ハイロイロノ感情カラ呼ビ起コサレタ印象ヲ、ソノ符合 = 依テ、明示セントスル。例ヘバ、羊ト云フ動物ヲ見タトキ、一度ソレヲ経験スルト、ソレヲ犬トハ考ヘヌ。皮毛トカ、白イ

(20)

云ヒ、⁶「コノ種、音ガ度々繰返サレルコトニ依テ、ソノ音ノカタマリニ對シ、自ラ一定ノ概念ヲ呼ビオコス様ニナリ、ソコニ、最初ノ語ガ発生スルノデアアル。」ト云ツテキル。又ニ曰ク、
「人類ト云フモノハ、道具(石器)ト言語ト何レヲ先ニ發明シタカノ問題ヲ考ヘルト、言語ハ道具ヨリ以前ニ發明サレタ。ソレハ如何ナル証拠ガアルカト云フニ、人間ノ動作ヲ表ハス言葉ノ語源カラ、道具ノ名ガ生ジテキル。」ト云フ。
例ヘバ臼ハ *mal* トカ *mar* トカ云フ種類ノ語源カラ、*mordes* (*mill*) ガオコリ、*mal mar* ハ噛ミクダクト云フ動詞デアルト云フ。コノ様ニ説ハ *gesture* ガ特ニ重視サレテキル。

又ニ以上ノ三説ノ全体ニワタツテ、*Ludwig Noiré* ト云フ人ノ説ガアル。コノ人ハ *Geiger* ノ云フ如ク、*gesture* = 擬音ガ伴ツタモノガ言語ノ最初ノ形デアアルコトヲ呑突ハシナイガ、披ハムシロ、感情ト云フ方面ニ重キヲオキ、人類ノ外界カラ受ケル衝動ニ依テ、最初ニ感セラレク音ガ、言語ノ語源トシテ大切デアル。ソレニハ三段階ガ存スル(感情ノ中ニ)。

(21)

第一ニハ、他ノモノヲ誘致スル叫聲。コレハ最も *primitive* ナモノデ、感情ヲ表ハスニスキタ。

第二、自分ノ敵ヲ脅威スルタメノ叫聲。コレモ感情ガ主デ、理性ガ入ラナイ。

第三、社会ガ相戒メ、拒ユズルトキニ発セラレル叫聲。コレハ社会的動物ニ於テノミ発セラレルモノデ、理性ヲ伴フ。

人類ノ語ト稱シ得ル最初ノ語ハ以上ノ低級ナ叫聲ニ本ヅクト思ハレルガ、ソレラノ中ノ最初ノモノガ *interjection* デアツタラウ。ソレハ何故カト云フニ、人間ノ原始時代ニハ、共同生活ヲシナケレバナラナカツタ。而レテ戦争ハ當時ノ社会ノ常デアツタ。従ツテ、特殊ノ音、符号ガ各々ノ氏族ノモノヲ結合スルタメニ必要ナモノデアツテ、コノ叫声ニヨリ遠方ノモノヲ集合シタリ、戦闘中ニ、他ノモノヲ叫ビヨセタコトガ想像サレル。ソコニ初メテ人間ノ *word* ガ意識的ニ基礎付ケラレタト考ヘラレヤウ。

要スルニ言語ハ、云フマデモナリ、互ニ共同生活ヲスル必要ノ上カラ起源シタノデ、何カノ仕事ニ人ヲ呼ビヨセル音ガ最初ノ *word* デア

(22)

ラウ。勿論、ソレハ最初ニハ、内容ノキハメテ不明ナモノデアツタダラウガ、漸次ソノ音ガ弁化発展シタモノデア、*interjection* ガ先ヅ第一ニ起ツタモノデアラウ、ト云フ。

コノ様 = *Nairé* ハ人間ノ共同生活 = 重キヲオキ、語、多クハ、人々が共同ノ仕事ニ従事スル場合ニ、期せずシテ起スル掛声 *clamar concomitans* = 起源スルト論ジタ。コノ説ヲ *yehu-yehu theory* ト云フ (*yehu* ハ水夫ノ掛声)。コノ様 = 彼ノ説ハ *interjection* = 重キヲオイタ。

言語ノ起源ニ関シ、以上ノ如キ説ガアルガ、ソレガ自然デアルカ、人定デアルカハ、断定サレヌノデアルガ、難シイ問題デアル。ソレデハ言語ガ成立シテ、*langue* トナツタ後、ソノ言語ノ約束ノ下ニ、発展変化スルガ、約束ノ下ニ変化スルコトハ人為的ナモノデアルカラ、コレガ人定ニヨリ動かサレルコトハ確カダカ、起源ハ説明出来ナイ。

論理學

(23)

logic ハ我々ノ思想ノアラハレオニ關スル準デ、又言語ガ思想ヲ外部ニアラハス道具デアル以上ハ、*logic* ト言語トノ間ニ交渉ノアルコトハ容易ニ認めラレル。然シ、*logic* 範疇ト言語的範疇ハ常ニ一致スルモノデハナイ。我々日用ノ文法的 *category* ハ *logic category* ヲ外レテキル。コレハ *logical* デナイト云フ理由デ、言語ノ形式ヲ非難スル者ガアルトスレバ、ソレハ言語ノ本質ノ立場ヲ理解シナイモノデアル。

而シテ *logic* ハ又、ギリシヤ語ノ構造ノ上ニ立テラレタモノデア、ソノ *logic* ノ形式ハギリシヤ、ラテン等ノインド、ゲルマン語ニハ良ク適用スルガ、印歐以外ノ雑多ナ言語ノ上ニモ、ソノママ應用サレルカ否カハ、尚疑問デアル。

ギリシヤ語ノ上ニ立テラレタ *logic* ノ範疇ヲ正シイト云フ理由ノ下ニ、ギリシヤ語ノ形トハナレタ言語ノ價值ヲ輕視スルノハ、非常ナ誤リデ、言語ト *logic* トノ關係ハ、コレヲノ点ニ於テモ研究サルベキ点ガアルト思フ。

ソノ他、言語ノ哲學的問題、理性ト言語ハ如何ニアラハレルカ、理性ハ言語ナクシテ存在シ得ルカ等ノ問題デアル。

B. 心理学的研究

言語の意義、変化の原因ニハ、イロイロノコト
ガアルガ、ソノ中デ最も着シイノハ、類推 *anal-*
ogy、比喻 *metaphor* デアル。

Analogy ハ、最初ニ手本ニナルベキ語ガアリ、
ソノ語ノ形ノ上カラ、或ハソノ意味ガ、ソレト、
内容上、何ラカノ関係アル他ノ語、ソレガ、語形
ガ似テキルト云フ関係ノ上ニ立ツモノニ、何ラカ
ノ影響ヲ及ボシ、ソコニ同化 *assimilation* フ
オコスコトデアル。例ヘバ模倣ノ場合、*English*
ハ *genetive* = スヲオシ *plural* フ作ルガ、
ソレガ本トナリ、他ノ場合ニモ *me* → *me's* ト
ナルガ如ク、又日本語デ動詞、働キノ中デ四段活
用ガ最も度々用ヒラレルノデ、コレガ他ニ及ボス。
はおリト云フ名詞ガはおるト四段ニ活用スル。

metaphor ハ *analogy* ノ一種デアルガ、
コレハ語ノ形、内容等ガ類似ヲ持ツ場合ニ、一方
ノ語ヲ以テ一方ノ語ニ置キカヘルト云フ現象ヲ云
フ。例ヘバ金ヲ入レル財布ヲがま口ト云フノハ、
ソレガがまノ口ニ似テキル所カラ、命名サレタノ
デアル。金ノコトヲお金ト云フ場合、ソレハソノ

働キノ上カラ、人カラ人ヘ流通シテキルト云フソ
ノ働キノ上カラ、ソノ名ヲ付シタ。

カ、ル例ヲ見ルト、言語ノ発達上、心理的
analogy、*metaphor*、及ボス影響ハ非特ニ
大キイモ、ガアルト云ヘル。又、我々ノ言語ノ習
得モ何ジ社会ヲナス人々ノ語ヲ真似ルト云フコト
ニアル。コノ *imitation* ト云フ作用ハ、子供ノ
トキニ盛ンデアル。故ニ言語発達史ニ於ケル心理
的模倣性ノ重要サヲ見ノガスコトハ出来ヌ。

又、我々ノ日常ノ談話ニアラハレル文法的事実
約束ハ常ニ必ズシモ *logical category* = 一致
スルモノデナイ。*logic* 以外、*analogy*、
如キ心理的作用ガ盛ンニ働イテキルノデアル。

又、言語ハ *word* ガ単ニ一定ノ法則ニヨツテ
配列サレタ。ツメタイ、寄合世帯デハナイ。ソレ
ヲノ語ガ結合シタモノノ上ニ、又ニ喜怒哀樂ノ感
情ヲアラハス揚抑ガ加ヘラレル。言語ニ於ケル感
情ノ表現ハ、言語トシテ最も重要ト扱フ換ズルノ
デ、コノ様ナ心理的事実ヲ見逃シテ、本質ノ言語
研究ノ目的ヲ果スコトハデキヌノデアル。デアル
カラ、言語ニ於ケル心理学的研究ガ如何ニ重要カ
ワカル。故ニ、心理学ノ中デ殊ニ言語ニ関スルコ

トヲ取扱フ部門ヲ言語心理学ト称シテキル。

言語學ハソノ発達ノ初期ニ於テハ自然科学ニ屬スルモノデアルト考ヘラレタガ。次第ニ心理的觀察ガ発達シテキタ。例ヘバ *America* デハ、*Whitney* ガソノ方面ノ先駆者デ、ドイツデハ *Herbart* 學派ガコノ方面ノ研究ヲシタ。ソノ他 *Steinthal*, *Lazarus* 等ハドイツノ代表者デアアル。尚又 *Wundt* ノ民族心理学ノ第一卷ハ言語ノ民族心理的研究ア有名デアアル。

佛國デハ *Sarmesteter* ノ言語ノ生命、*Briéal*, *Delacroix* 等デアアル。

而シテ又、言語ノ心理的研究ハ実験ニウツタヘ、実験心理学的研究ガ盛シニナツテ来タ。

C. 社会学的研究

我々ノ日常ノ行爲ハ、我々ノ意志ソノマ、ノアヲハレデハナイ。モシ我々が各自ノ意志ノマ、ニ行動セントシタナラバ、ソノ場合、常ニ動物界ニ見ル如キ鬭争ガ絶エマナク起ルト思フ。我々が安穩ニ社会ニ存立シ社事ニ競争シ得ルノハ、各自ガソノ社会ニ行ハレル法律、習慣ニ従フ義務ヲ行フト云フ結果ニ他ナラヌ。モシアル人が社会ノ法

律、習慣ニ背イテ、アル行動ヲシタ場合(ソレガ理論的ニ正シイコトモアリ得ルガ)ニハ、ソノ人ハソノ社会カラ制裁ヲカフムリ、凡ハジキサレル場合ニヨリ罪ヲウケル。ツマリ、法律、習慣ハ各個人ノ属性以外ニ存スル所ノ、即チ、各個人ノ組織スル社会ニノミ存在シ得ル所ノ社会的事実ナデアアル。

然ラバ言語ハ如何ト云フニ、コレモ等シクーツノ社会的事実デアアル。各個人ガ発音スル音ニツイテミルト。第一ニ発音器官ノ構造、是ニヨリ、又ソレヲ発音スル場合ノ心理状態ニヨリ、イロイロノ差異ガ存スル場合ガアル。又ーツノ同ジ *word* デモ、ソノ内容ガ個人ニヨツテ差異スル場合ガ非常ニ多イ。ツマリ、最モ嚴格ニ意味ニ於テ、世間ニハ全ク同一ナ旨ヤ意味ヲ有スル *word* ハ存シ得ナイ。モシ世人ガソレヲノ甚ク厳正ニ批判シナガラ他人ノ話ヲ聞イテキタナラバ、オソラク、ソノ他人ノ話ヲ理解スルコトガデキズ、然ツテ、日常ノ用ニ立タヌ。

社会ハ個人ノ數細ク言語的差異ヲソレホド重要視セズ、社会ヲ單位 *Standard* トシ、抽象的ニ標準ヲ設ケル。即チ、個人ガ社会ノ一員タラン

ガタメニハ、場合ニヨリテハ個人的ノ発音、個人的ノ用法ヲステ、ムシロ抽象的ノ自己属性以外ノ習慣ニ狭ハネバナラヌトイフコトガオコル。我々が言語教育ニ於テ、方言的訛音ヲ矯正サレ、標準語ノ學習ヲ強ヒラレルノハソノ例デアアル。モシ個人が各自ノ特質ニ固着シテ顧ミナイコトガアルナラ、ソノ人ノ話振リハ世人カラ嘲笑ヲウケルコトニナルノデアアル。

元來、我々ノ言語ハ、ソノ音ニ於テモ、外形ニ於テモ、意義ニ於テモ、絶エズ変化シ、古今ニワタリ、ソノ変遷ノ跡ハ顕著デアアル。コレハ言語ノトルベキ當然ノ道デ、全ク有機的進化ト称スベキモノデアアル。シカシ言語ノ変遷進歩ト云フテモ一突ノ法則ガアリ。機世ニナリ此事ヲ反省スルト前述ノ如ク言語ガ着シク変化ヲシタコトハワカルガ、各時代ニハ、ソノ時代ノ言語精神ガ嚴存シ、発音ニモ語法ノ点ニ於テモ法則ノ例外ニ逃出スルコトヲ禁ゼラレテキル。即チ、発音ヤ語ノ内容ガ、アル機会サヘアレバ、他ノ外方ヘ逃出セントスルモノデアアルガ、言語ガ社会ノ公器デアアル以上、勝手ニ逃出ヲ許スコトハデキヌ。ソコデ言語現象トシテ社会ニハニツノ反対ノ牽制カガ働キカケテキル。

1. 一突不変ノ常道カラ、絶エズ逸出セントスル遠心力、*centrifugal* デ。

2. ソノ反対ニ働キ、ソコニ *unity* ヲハカラストスル求心力、*centripetal* ノガアル。

コノニツノカハアル程度マデハ個人的ノ行動ヲ許スガ、アル程度以上ハソノ行動ヲ許シ得ナイトスフ法律・習慣ト似タ点ガアル。コノ様ナ意味ニ於テ言語ハドコ迄モ社会的事実デアルト云ハネバナラヌ。

以上ノ如ク言語ガ社会的事実デアアル以上、ソノ變化ノ状況ハ自然科学法則ヲ律スルコトハデキヌ。

19世紀ニドイツヲ中心トシテ起ツタ新言語學派 *neo-grammatiker* ガ印度ゲルマン語族ノ音韻変遷ノ歴史ヲ明ラカニシ。所謂音韻ノ法則ヲ立テタガ、ソレガ餘リニ嚴格ナ法則デ、或点ニ於テハ自然科学ノソレニ近イモノデアツタノデ、據ニナリ、社会學的言語研究家カラ非難ヲウケタ。コレヲ言語ノ社会學的方面カラ見タ人ハ、最近ニハ多イガ、古クハ *Comte*, *Cournat*, *Jarke* 等ガアツタガ、近頃ハコノ方ノ人々ガアツハレ、殊ニ言語學有トシテ、社会學的研究ヲスルコトガ盛シニナツタ。

有名ナ人ニハ

Saussure, Meillet,

Vendryes, Bally,

Brunot.

社会学的研究ノ大切ナルコトハ以上デ終ル。

第二節 特定言語ノ研究

コレハ言語ノ本質ト云フ方面ニ関スル研究デナク、前述、Steinthal、Besondere Sprache、又 Gebeley、Einzel Spracheニ属スル研究デアル。即チ、過去ニ於テ曾ツテ存在シタ言語、又、過去カラ今日ニ連続シ存在シホツタ言語等、凡ソ言語ニ関スル大小ノイロイロノ現象ノスベテヲ研究ノ対象トスルモノデアル。コノ様ナ複雑ナ現象ヲ科学的ニ研究スルコトハ容易デナイ。故ニ、コノニ難關ヲ切り開ク研究法ガ立テラレベキデ、ソレニハ色々ノ方法ガアルガ、先ヅ最初ニハ現在立脚シテキル時間、空間的地点ヲ基礎トシテ、歴史的、比較的研究ノニツニ大別スル。

歴史的な研究法

歴史的な研究トハ、アル言語ガ如何ニ変遷シ、又シテキタカラ研究スル方法デアアル。

言語現象中ニハ、一般、通則ニ適用シナイ例外的な変化ヲ引キオコス場合モアルガ、大体カラ云フト一定ノ通則ノ下ニ徐々トシテ発達、変遷スルモノデアアル。ソノ変遷ノ跡ヲ忠実に辿ルコトヲシナカッタナラバ、ソレハ、ソノ語ノ本質ノ姿ヲ見キハメルコトハデキヌ。故ニ研究者ハ第一ニ歴史的な変遷ニ注目スベキデ、例ヘバアル語ノ音韻ハ如何ナル変遷ヲシテキタカ、例ヘバ English、house ト云フ語ハ [haus] デアル。ドイツ語ニモ [haus] ト発音スル。ソレガ外ニ Swedish デハ [su:s] トナツテマリ、Dutch デハ [hφys] トナツテアラハレル。又、コレト同様ナ category ニ入ルモノデ mouse ハ English ハ [maʊs]、Deutsch デハ [maʊs]、Swedish ハ [mu:s]、Dutch デハ [mφys] デアル。コノ場合、English、ou ハ 8-9 世紀ノ頃ニハ [u] デアリ、[hus]、[mus] ト書カレテキタ。而シテ、オランダ、スエーデン以外ノ言語ノ中ニモ [u] ト発音セラレ

アキル。

コレヲノ現象ヲ歴史的ニ見ルト、コノ *Germanish* ノ古イ時デ〔ou〕ハ〔u:]ノ如ク捲音サレタモノデアルト云フコトガホツテホク (*Germanish* — 今化シナイ前)。

日本語ニモ普通母音ハゲツデアルトサレルガ、古クハ、ソレヨリ多クカ又ハ少クアツタオト云フコトハ問題デアル。又、子音ノハヒフヘホガP音デアツタカ否カモ、歴史的ニ依ツテ、明ラカニスベキデアル。コレヲノ研究ガ *einzel Sprach* = 於テ行ハルベキデ、又音韻ノミナラズ、形態ノ上カラモ

他ノ言語カテ超然トシテキルコトハアリ得ナイノデ、多少ノ差コソアルガ他カラ影響ヲウケルノガ常デアル。ソノ語ガ本来ノ語カ、借用語デアルカハ、大切ナ歴史的ニ依ラネバナラス。

又、語意ニトビマラズ、文法的構造 *form*、又、意義ニ関スル変遷ハデキルガケ忠實ニ溯ラナケレバナラス。

語法革ハ容易ニ変化シナイモノダガ、場合ニヨリ他カラ影響ヲウケルコトガアル。*English* = ハ *Roman* カラ影響ヲウケタコトガアリ、ス

カンデナビヤノ影響モウケタコトガアル。

日本語モ支那カラ、*Syntax* 上ニ変化ヲ興ヘラレタコトガアル。今日、他ノ語ト日本語ト関係ガナイト云フガ、日本語成立前ノコトヲ考ヘルト、何カ他ト関係ガアルカモシレス。

印欧方面ノ歴史的ニ研究ハ、18世紀頃ニ勃興シタノダガ、ソノ中デモ *Grimm* ノ *German* 語ノ歴史的ニ研究ガ劃期的デアルト云ハレル。

日本語デハ、日本ノ歴史的ニ研究ト云ヘバ、大体中古ノ音韻語法ヲ中心トシタモノデアルガ、近頃ハ各時代ノ研究ガ盛ニナツタコトハ慶賀スベキコトデアル。

比較的研究

ニツスハソレ以上ノ言語ニ存スル現象ヲ比較研究シ、言語ノ変遷特徴ヲ考察スル。元来比較ト云フ用語ハ、嚴密ニハ同種ノモノノ間ニ於テ、ハジメテ有意義ナモノデアルカモシレヌガ、一般ノ用法トシテハ異種ノモノ (動物植物)ノ間ニモ比較ト云フ用語ガ用ヒラレル。言語ノ比較ト云フ場合、言語ハ元来非常ニ多イガ、ソノ中ニハ系統ノ明ラカナモノモアリ、不明ナモノモアリ、同一系統ナ

(34)

ルコトが明ラカナル言語ノ相互間ノ比較ハ固ヨリ
意義ガ深ク、ソノ研究效果モ著シイノデアアルガ、
比較研究ガ一般ニ、系統ノ明ラカデナイ言語ノ比
較ニモ用ヒラレテキル。取密ニハヨクナイカモシ
レナイガ、世界ノ言語ノ系統論ノ明ラカデナイ今
日デハ、比較ト云フ意味ヲ異種ノ言語ノ間ニモ應
用スルコトハ已ムヲ得ナイト思フ(比較ト云フ用
語上ノ注意)。

サテ、昔ノ様ニ學問モ十分発達セズ、交通モ
開ケナカツタ時代ニハ、各民族ハ民族的誇リヲ有
シ、自分ノ話ス言語ハ最も秀レタモノデアルト考
ヘタ。ギリシヤ人モサウデアツタ。支那人モサウ
デアアル。ソノ他語ヲイヤシメル傾向ノアル時代
ニハ自國語ヲ客観的ニ見ルコトハ有リ得ナイガ、
従ツテ、他ノ語ト比較スルコトハ當然起ル筈ガナ
イデアアル。

然ルニ、世界ノ交通ガ頻繁ニナリ、學問ガ発達
スルト、自分ト比較スル機会ヲ得ル。昔ギリシヤ
人ハ地中海ヲ渡リ、イロイロノ人種ト言語ニ接シ
ギリシヤ語ヲ他ノ語ト比較スル機会ヲ與ヘラレタ
ノデアアルガ、未ダ豊富ナ材料ニ接スルコトガデキ
ズ、正シイ認識ニ達スルコトガデキナカツタ。ソ

(35)

レガ、時代ノ進ミ、交通・學問ノ発達ト共ニ、印
度方面カラ、歐洲ノ方ニ大キナ語族ガ存シ、自今
ラガソノ一員デアルトイフコトガ明ラカニナツタ。
ソレハヒトヘニ比較研究ノタマモノデアアル。イロ
イロノ言語ヲ比較スルコトニヨリ、原始スラブ語、
原始ゲルマン語トカ、共通ノ古イ語源ガ再建サレ
テ、ソレガ又更ニサカノボリ、印度ゲルマントス
フ語族ノ再建ヲ見ルコトガ出来ルヤウニナツタ。

Boppノ印度ゲルマンニ対スル研究ハ、當時比較
研究トシテ最もスグレタモノデ、前述ノ Grimm
ノ歴史的研究ト對比スベキモノト云ハレル。語ノ
系統的研究ハコノ比較的研究ニヨリナシトゲラル
ベキモノデアアル。

今日言語ノ系統トシテハ印歐語、ウラルアル
タイ又ハセミライク、*monosyllabic* 語族等ガア
リ、ソノ中ノアルモノノ研究ハ非常ニ進歩ヲシテ
キルガ、ソノ中ノアルモノハ幼稚ノ域ヲ脱シ得ナ
イ。ソノ幼稚ノ原因ハ、材料ノ貧弱、研究法ノ不
十分等デ、ソノタメデアルト考ヘラレルガ、日本
語ノ比較研究ハ如何ト云フニ、非常ニ幼稚デアアル。
ソレハ従来ノ學者ハ日本語ノ歴史的研究ト云フ方
面ニカヲ注イデ来タ。即チ、日本語ガ日本語トシ

テ成立シタ原始日本語以来ノ今ノ日本語ト似タモノノ研究ヲシテ未ク。即チ、歴史的研究ヲシカモ以前ハ平安朝ダケデアツタガ、今日デハ、ソレ以後、以前モ行ハレルヤウニナツタ。而シテ、日本語ノ語源ヲ説キ、系統ヲ論ズル時ハ、同ジ日本語ヲ土台トシテ説カウトスル傾向ガアツタ。我々が日本語ノ正体ヲ知ラウ、客観的ニ見ントスル場合ハ、我々ハ日本字ヲ忘レ、日本人タルコトヲ忘レルカモシレバ、而シテ、歴史以前ニ我々ヲオイテ廣ク、他ノ言語ヲ比較スルコトヲ心掛クベキト思フ。日本語ノ本質ヲ明ラカニシ、系統ヲ明ラカニスルコトハ、幾多ノ困難ガアルノデアル。

歴史的研究ハ時代ヲ通ジテノ言語研究デアル。

linguistique diachronic デアル。

比較的研究ハ横廣ガリノ研究デアル(同時代ヲ標準トスル)。*linguistique synchronic*。

而シテ、コノ歴史的研究、比較的研究トモツテ、違ツタ研究ノ様ニ見エルガ、各々が独立シテハ充分ノ樹ヲアテハスコトハ出来ナイ。ニツノモノガ互ニ結合シテ、ソノ目的ヲ達スルコトガ出来ルモデアアル。例ヘバ日本語ノ性價ヲ明ラカニスル場

合ニハ、同種ノ語ト比較スルコトハ勿論大切ダガ、ソノ前ニ日本語自身ガ如何ニ発達変遷シタカラ研究スルコトガ先ヅ大切デアアル。歴史ヲ無視シタ様ニ研究、例ヘバ著シク変化シ果シタ現代ノ形ヲ以テ他ノ言語ノ古イ形ト比較スル等ハ、危険ナコトハ勿論デアアル。

以上ハ、言語研究ヲ時間ト空間トニ分ケ、コノ基礎カテ出発スルコトヲ述ベタガ、又言語ヲ別ノ方面カラ觀察デキル。ソノ方法ハ人ニヨツテ違フガ、例ヘバコレヲ *Statics* 静力学ト

Cinematics 動力學ト

Statics ハ言語ノアリノマヽノ *description* デアル。即チ、アル特定ノ言語ノ音韻ノ性價、語詞ノ分類法、文法ヲ如何ニ分ケタガ適當カラ記載スル方法デ、*Cinematics* ハ言語ノ変遷ヲ起サセル原因、即チ音韻変化ノ原因、語意ノ発達シテ行ク順序、意味ノ変化ノ原因等ヲ研究スルノデアアル。尚ソノ他ニハ研究部門ガ行ハレルガ、私ハ便宜上、第一節ノ内容ノ分類トシテ、

音韻論

形態論

意義論

ニ分ケテ第一節ノ話ヲ進メ様ト思フ。各々ニツイテ述ベル。

音韻論

言語ノ音聲ニ対スル観察法ハ今日ニ於テハニツアル。

Phonetics,

Phonology,

Phonetics 音聲學ノ方ハ、近來非常ニ嚴格ニ意味ニ用ヒラレル場合ガアル。即チ、*Phonetics* ガ取扱フ所限ハ、特殊ノ言語ノ上ニ存スル音聲ノ研究デハナクシテ、即チ *langue* デハナクシテ、極メテ一般的・抽象的言語ト云フ概念ノ上ニ存スル音聲ノ學デアル。即チ、人類ノ言語ノ上ニ存スル音聲ト云フモノハ抑々如何ニシテ発音サレルカ、如何ナル種類ノ音ハドンナ発音器官ニヨルカ、ソレヲノ音ノ本来ノ強サ、高サ、ソレヲノ關係ヲ研究スルモノデアル。若シソレガ一般的言語ノ範圍ヲハナレテ、アル特殊ノ言語ノ上ニ適用サレル場合ニハ、ソレハモハヤ *Phonetics* ト稱スルコトハデキナイ。ソレハ *Phonology* ノ領域ニ入

ルモノデアルト説明スル。

コノ様ヲ見方ハ、一ツノ理由ガアル。併シテラ、*Phonetics* ト云フ *term* ハ、實際上カラ見ルト、從來特定ノ言語ノ音聲ノ場合ニモ廣ク用ヒラレテ来タ。コノ *term* ノ上ニカクノ如キ差異ガアルガ、コノ意味ニ於ケル *Phonetics* ノ研究ハ古クカラ言語學者ノ注意ヲ惹キ、進歩シタガ、近頃ハ実験音聲學ガ飛進シ、音聲ヲ物理的ニ実験シテ、細カイ音聲ノ性質ヲ明ラカニスル様ニナツテ来タ（音聲ヲ機械的ニ見テ、心理的ニ見ナイ欠点ガアル）。

Phonology ハ音聲學ニ対シ、音韻學ト云フ。コノ *term* ニモ從來ハ若干異ツタ概念ガ興ヘラレテ来タガ、今日デハ *Phonetics* ニ相對立スルモノト考ヘラレテ来ル。即チ *Phonetics* トハ人類ガ有スル言語ノ音聲ヲ研究スルモノデアルトスルナラバ、*Phonology* ハアル特定ノ言語ニ於ケル音聲現象ヲ取扱フモノデアルト考ヘラレテ来ル。即チ、*Phonology* ハアル特定ノ場合ニ於ケル言語ノ音聲ヲ取扱フ。換言スレバ、アル特定ノ言語ニ於ケル音ノ発音法、及ビソノ特徴ノアル現象ヲ見、又ソレヲノ音ノ結合ノ上ニアラハレテ

(40)

未ルコトアル。特殊ノ音現象(音ノ同化、*accentation*)等ヲ論ズル。又ソノ上ニ、特定ノ言語ニ於ケル音ノ変遷、意義トノ關係ニモ説キ及ブコトヲスル。故ニ範圍ハ仲々廣イノデアアル。

今又ツク言語ノ音聲研究ニ對スルニ部門ヲ見ルト、ソノ特徴ハ即チ *Phonetics* ハ我々ノ言語ノ音聲ヲ、ムシロ物理學的、生理學的ニ見ル。即チ分析的研究ニ傾イテキルノデ、*Phonology* ハアル言語ニアラハレタ音聲ヲ心理學的、綜合的ニ研究スルノデアアルカラ、*Phonetics* ハムシロ自然科学ニ屬シ、*Phonology* ガ人文科学ニ屬スルト考ヘルコトガ出來ルノデアアル。ソシテ方言諸學ハ人文科学ニ屬スベキモノデアアルカラ、ソノ音韻的研究(言語學ノ一部トシテ)ハ專ラ *Phonology* ノ方ニ制限サレルモノデアアルコトハ明ラカデアアル。換ツテ、自然科学ニ屬スル *Phonetics* ノ研究ハ言語學ノ領域ニハ屬シナイト云フ論モ成立シ得ル。即チ、*Phonetics* ト *Phonology* ヲ明白ニ相對立サセ、相排斥スルモノノ様ニ考ヘル人モアル。成程コレニハ一ツノ立派ナ理由ハアル。併シテ、*Phonetics* ノ研究ハ音聲ノ生理的、物理的研究ノミニ立テコモルワケニハユカマノデ、

(41)

ソノ中ニハ我々ノ聽覺、ソノ他心理的研究ニ排斥スルコトハ出來ナイシ、又 *Phonology* ノ研究ニモ、ソノ基礎ヲナス *Phonetics* ノ知識ガナクテハ全クソノ目的ヲ達スルコトノ出來ヌコトハ明ラカデアアル。ソレ故、コノニツノモノハ、科學トシテノ根本性質ニハ、相及シタ所ノ差異ガアルト云フコトハ出來ヌウガ、殊更ニ互ニ排斥シ合フ理由ハナイト思フ。即チ、言語學ハ *Phonetics* ヲ以テソノ補助學科トシテ、充分コレヲ活用スベキモノデアラウシ、音聲學ノ方モアル程度迄心理學的要素ヲ考慮ニ入レ研究ヲス、メルコトガ必要ト思フ。即チ、音聲學ト音韻學トノ關係ハ、解剖學ト生理學トノ關係、植物學ノ生理學ト形態學ニ相當スルモノト思フ。{ *analyze* スルモノト、ソレヲ系統付ケルモノトガ必要デアアル。}

音韻論ニ關シ、近頃 *Phonème* ト云フ *term* ガ用ヒテレル。コノ *term* ハアル人ハ音素トカ、音韻ト云フ語ヲソノマ、適用シテキル。*Phonème* トハ元來 *Baudouin de Courtenay* (ロシアノ大學ノ助手)ガ用ヒ始メタモノデア、生理的音聲學ニ對シ、心理的時間ニアテハメタ名デアアル。1928年^{ハーツィンカ}第一回國際言語學學會ニ於テ、フター

(42)

グ激ノ幸者アル Trubetzkoy ガ學界ニ譽唱シタ。名ハ Courtenay ガ用ヒタガ。Trubetzkoyニヨリ有名ナ反響ヲ起シタ。

英國ノ Daniel Jones ハ初メ、Trofimovト共ニ“ロシア語ノ發音法”ノ中デ、Phonèmeノ定義ヲアゲタ。ソノ後 1931年、万国音聲學界デソレヲ修正、明年 1932年ニ更ニ修正シテ發表シタ。ソレニ曰ク、

“A family of sounds in a given language, which are related in character and are such that no one of them ever occurs in the same surroundings as any other in words.”

“アル音ノ一族ヲ稱ス。ソレハ性質ニ於テ、關係ガお互ニ深イ。シカモ、ソノドレヲトツテ見テモ、決シテ、語中ノ同ジイ環境ニ起リ得ナイ様ナ音ノ一族。”ヲ Phonème ト云フ。性質ガ relateシテキルコト、ソレカラ、同ジ環境ニマツトハ、アル母音ガ、ソノ兩側ニ同ジ音デハサマレルトカ、長サモ、強サモ変ラヌト云フコト。

例ハバ Gakko ト Sho-gakko トヲ比ベル

(43)

ト、〔ga〕ト〔ya〕トニ分カレル。コノ様ニ音ガ、環境ガ異ナルタメニ、遠ツタ音ニナツテアラハレル。併シテラ、ソノ音ノ性質ニ於テ、共通シタ所ガアル。コノ場合、〔ga〕ト〔ya〕ハ Phonème トアル。

尚 Jones ノ説明ニ依ルト、

keep, ^{k'} call, ^{k''} cool, ^{k'''} / 三語ニ於ケル Kハ個々ノ音聲學ノ上カテ(生理的ニ見ル)見ルト、各、次ノアル母音ノタメニ、遠ツタKデアル。即チ、後方母音〔u:]ノ前ニKガアラハレル(coolノ時ニハ)。ソシテ〔i:]、〔ɔ:]ノ時ニハ、遠ツタKガアラハレル。即チ、u:ト云フ後方母音ノ環境ノ時ニハKガ出ル。又K'ガ出ルタメノ環境ハ、次ニ〔i:]ガ来ナケレバナラヌ。コノ様ニ隣接母音ニ依テ変化スルノデ、コレヲ

Phoneticsノ上カラ分類スルト色々アルガ、我ガ區別レナケレバナラヌホドノコトハイラス。

又尚、南部英語ノ leaf ト feel トノ lハ、實際ハ異ナツテキル。何故ナラ、前ノ lハ clear l デ、feelノ lハ dark l デアルト、コノ様ニ感ジテ南部デハ有シテキル。

clear lハ常ニ次ニ母音ガ来ル時デ、dark

(44)

ルハソレガ語尾=アラハレル。即チ音トシテハ別デアルガ。ソノ間=混則オアル。コノ様ナ場合ハ、實際環境が違フゲケデ差異ハナク、ニツノルハ *Phoneme* デアルト云フ。

ルハイタリー、フランス、ハンガリーデ、*k, g* ノ前=ホルト *nk - ɲk, ng - ɲg* トナツテアラハレル。他ノ場合=ハ。ソナニナラヌ。コノ場合=、ソレヲノ言語=於テハ *ɲ* ト *ɲ* トハ同ジ *Phoneme* デアルト云ヘル。

ルヲアラハス=、朝鮮デ〔己〕ノ文字ガアル。コレガ語ノ尾=ホルト時ハ *l* トナリ、中程等=ホルト *ɲ* =ナル。即チ *situation* =依リ違フ。

-l — Kal final
-ɲ — Kara med.

以上述べタ如ク *k* モ *l* =モ種々アリ。場合=ヨリ、各々転換ガアルガ。ソノ語ノ意味ノ上=ハ何等ノ意味ヲ生ジナイ。

要スル=、*Phoneme* ハソノ一族ノ各々、*element* ガ音聲等、上カラ見テ違ツタ音ヲ有スルモノガアル=セヨ。意味ノ上カラ見テ、同一音ト見ラレル心理的基礎、上=立ツーツノ單位ナデアル(意味ト云フコトヲ重視シテキル)。

(45)

尚、*Bloomfield* ノ "Language" ノ中=曰ク、

言語ノ正体ヲ知ラウトスル=ハ、單=純粹ノ生理學的 *Phonetic* チハナレ。 *Speech form* 語形ノ形ヲ構成スルアラユル *Situation* ヲ統一シテ見ル覚悟ヲ違マヌバナラヌ(餘リ分解的=見テハイケナイ)。例ヘバ *man* ハ人々=ヨリイロイロナ *Pitch* デ話サレルデアラウガ、ソレデモ尚、同ジイ語デアアル(意味=於テ)。 *man* ガ *men* =ナリ。 *pin* ガ *pan* =ナルト丸デ別=ナル。意味ヲ重視シタ *Speech sound* ハ *Phonology or practical phonetics* ト云フベキモノデ、即チ *Phonology* ハ意味ノ方=考慮ヲ構フベキモノデアアル。ソレカラ又、我々ノ *Speech form* =於テ、意義ヲ主トシタ語形ハ音響的デアナク、音響學的形=比ベルト、ソノ数ハ制限サレテキル(*Speech form* デハ小サイ差別ガナクナルカラ、数が少クナル)。

ソシテ、實際上ノ言語ノ使用=アタツテハ、語ノ微小ト発音ノ差異ハ看過サレテ、大耳=ツク。例ヘバ *pin* ハ、コレ=部分的=似テキル語形ハ沢山=アリ得ル。 *pig, pan*。然シ、コレヲ

(48)

意義論

言語ハ社会ト密接ト関係ノアルコトハ前述シタ。ツマリ、語ノ意義ノ変遷ハ、主トシテ社会カラノ反映デアルコトガ多イ。コレモ頗イ範圍ニワタルガ、コレハ昨年ハ略述シタカラ略スガ、今年ハコレニ関係シタ第五章以下ニ於テ、触レテオキタイ。

言語研究ノ部門トシテ先ヅ以上ノ如ク办ケレルト思フ。

第二章 言語学史

Thomsenヲ主トシテ述ベル。

第一節 印度ノ言語研究

古代ノ言語學ノ萌芽ハ、印度ト希臘デ起ツタ。先ヅ印度デハ、今日ノ意味デハナイガ言語學ハ、聖典ノ Veda、殊ニ Rigvedaノ研究カラ始マツタト云ハレル。コノ聖典ハ非常ニ古ク、最も古イ部分ハ B.C. 1500年ヨリ新ラレイト思ハレ

(49)

メ。ソシテ、聖典ガ書カレテキル古イ言葉ハ昔ノマノ、寧デ、口碑トシテ年代ヲ重ネテ未ダガ、後世デハ、口デハ傳ヘルガ、意味ガワカラナクナツタ。ソノ意味ヲ明ラカニスルノガ第一ノ動機トナリ、又第二ニハソノ當時ノ生キタ言葉ニ Sanskritガアツタ。ソノ Sanskritヲ研究スルノガ第二ノ動機デアツタ。

印度人ガ何時頃カラ文法的研究ヲシタカ、コレニツイテハ多少、異論アリ。明ラカデナイガ、ソノ中デ、最も立派ナ文法書ノ出来タノハ、Pāṇiniノ文法書デアアル。コノ人ハ何時頃生存シタカニツイテハ多少ノ説ハアルガ、大体、B.C. 300年又ハ第四世紀ノ後半頃デアルト云ハレル。勿論ソレ以前ニモ、文法トカ辞書ガナイワケデハナイガ、コレ位立派ナモノハナカッタ。コノ Paniniノ書ノ形式ガ、後ニ Europeニハツテ、影響ヲ興ヘタコトハ注意スベキデアアル。

全体、印度、ギリシヤノ言語研究ヲ見ルト、ソノ研究法ガ contrastヲナンデキル。即チ、ギリシヤ人ノ研究ハ、主トシテ言語ノ起源、言語ノ一般的原則ニ関シイロンナ speculation (philosophical)ヲ加ヘルコトデアツタガ、印度

人ノ研究ハ、言語ノ形式ヲ分解シテ、アリノマ、
=記述 *describe* スル *empirisch* ナモノデ、
先ヅ第一=言語ヲ解剖的=取扱ツタ。即チ、語根
ト語幹トヲ、又語尾ヲ區別シタ。スベテノ語ヲ語
根ト云フモノ=還元シナケレバ又ノスママ傾向ガ
アル。コレモ西洋ノ言語学=影響ヲ興ヘタ。

第二=、ソレヲ綜合的=観察スルコトモ考ヘテ
キル。即チ、音ノ色々ナ生理的研究ヲシテキル。
ソシテ、相互間ノ関係、全体=対スル関係等モ、
研究シテキタ。例ヘバ *vid* ト云フ語根ガアル。
コレカラ *vidma* トナルト *wir wissen* ト
ナル。 *veda* トナルト *Ich wisse* トナル。
イトカエト。 *a*トガ、母音ノ変化=ヨリ語ノ意
義ガ変ハル。コノ様ナコトハ、何デアルカ、一定
ノ関係ガアリハシナイカト云フコトハ、綜合的=
見タ。

第三=、言語ノ形態的方面=モイロイロノ區別
ヲ立テタ。前述ノ如ク、語根、語幹、語尾等ノ順
序ヲ明ラカシ。又 *case* ヲ設ケテ *nomina-*
tive, accusative 等、七種=分ケタ。コノ
様=記述的ナル点=於テハ印度ノ研究ハ仲々詳細
=調査サレタ。 *Panini* ノ書ハ規則ガ 4000

モアルタメニ、分リ難イ。

第二節 ギリシヤノ言語研究

ギリシヤハ、前述ノ如ク、印度トハ、ソノ研究
ノ趣ガ違ツテキタ。例ヘバ我々ノ思想ト語ノ関係
トカ、物ト名称ノ関係等。カ、ル思想的、哲學的
ナモノデアツタ。

ソノ代表的論争ノ的ハ、コレモ前述ノ如ク、自
然ト入定ト云フ問題デ、コノコトハ後世マデ論争
ガ籠ケラレタ。

コノ問題ハ *Heraclit, Demoklit* ト
ノ間=取扱ハレタシ、又、諸学派 *Stoik* ノ
Protagoras 等ノ問題トナツタガ、コレガ一層
深刻=論ゼラレタ所ノ文学、シカモソレヲ最初=
取扱ツタモノハ *Plato* ノ *Dialogue* デアル
所ノ *Kratylos* デアル。コノ *Dialogue* ノ
中デハ、先ヅ *Sokrates* ガ現ハレテキル。
Sokrates 以外=、*Hermogenes* ト *Kraty-*
los ガ現ハレ、言語ノ起源ヲ論ズルコトニナル
デアアル。

次 = X. 哲学者トシテ *Aristoteles* ガ出テ、
彼ノ言語研究ハ論理学、範疇ニ属スルモノデ、文
法ソノモノヲ研究シタ人デハナイ。併シテラ、
Aristoteles ハ初メテ、文章ノ組織ヲ三ツニ分
類シタ。三詞。

1. 名詞. *nomen*.
2. 動詞. *verbum*.
3. *conjunctio*

第一、*conjunctio* = ハ、餘リ重要デナイ。イロ
イロノ語ガ含まレテキテ、接続詞以外ニ、代名詞、
冠詞等モ含ミ、尚又、ソレ以外ニ、*ptōsis*

(“*Fall*” = *casus*) 格ガヤハリ第一ノ中ニ入
レラレテキル。序デ = X フガ、*ptōsis* トハ、名
詞ノ *nominative* カラ、派生シタ色々ノ語尾変
化、又動詞ノ現在ヲ基本トスル所カラ、派生シタ
語尾変化ヲ意味スル。

コノ最初ニ區別シタトイフコトガ彼ノ功績デア
ル。

又、*Aristoteles* ハ名詞ニ対シ三ツノ性ヲ設ケ
タ。(1) 男性。(2) 女性。(3) 中性。ソノ際
ニ、彼ノ初期ノ考ヘデハ、*nominative* = アラ
ハレテ来ル語尾ニヨツテ區別シテ、實際ノ性ト一

致シナクテモヨク形ノ上カラ區別セントシタ。

彼 = 次デ、ギリシヤニ於ケル哲学者ハ、又自然
人定ノ論ヲ繰リ返シタ。即チ *Epicurus* 派ノ
人々ハ、

“言語ハ元来、自然トシテ存シタモノデアツタガ、
後ニハ、色々ノ民族ニ依リ、即チ、ソノ環境ニヨ
リ、多少ノ制限ガ加ヘラレ、色々ノ言語ニ種々ノ
特徴ヲ與ヘル結果ニナル。”

ト云ツテ、ニ論、折衷論ヲ出シタ。

之ニ対シテ、*Stoic* 派ノ哲学者ハ自然ノカヲ
主張シ、

“言語ハ人類ノ *Seele* = 本来カラ存シタモノデ、
nomen, word ハ事物ノ性質、*nature*
(自然 = 有スル性質) ト相一致スルノガ當然デア
ル。”ト自然ノ説ヲ唱ヘタ。

コレニ対シ *Sceptic* 派ノ人々ハ、“言語ハ
寧ろ人定デアル。”ト云フコトヲ主張シ、言語ハ
任意ト偶然ノ動機デ意味ヲ生ズル機ニナツタト唱
ヘタ。

又、*Stoic* 派ノ人々ハ *Wort* = 対シテ曰ク、

“*Wort* ハ自然ト相一致スル真理 *Wahrheit*
ヲ含ンデキル。即チ、語ハ、元々、*etyma*

(54)

(wahr) デアルト。ソノ結果トシテ *Die Wahrheit* (etymon) ト云フコトヲーツツノ *Wort* = 末様トシテ、コノ = *etymology* ト云フ新ラタナ等間ガ発達スル様ニナツタ。ソレデ *Stoic* 派ノ人々ハ語源論ヲキツタ。シカシ、ソレハ *Katyllos* = アラハレタ如ク、キハメテ任意的ナモノデ、今日ノ語源論 = 相傳スルモノデハナカツタ。

ソレカラ又、*Stoic* ノ人々ハ文法上ノ用語ヲ突メタコトモ注意スベキデアル。例ヘバ前ノ *ptosis* ノ如ク、コレ = ハ第一番目 = *arche* = *nominative* 正シイト云フ意味デ。標準 = ナル自然ノ形ヲソナヘタ格ト云フノデ、*nominative* ト訳シタ。 *nominative* 以外ヲ含メテ、*oblique* ト稱シ、*nominative* 一格ノ次ハ *genitive* ト云ヒ、*genetivus* ト訳シ、*genos* カラ発生シタノデ、"種類"ヲ意味シタ(分類上ノ)。故ニ訳ハ適當デナイト思ハレル。何故ナラバ、起源ト云フ意味ガカラ (*Latin* = 派テ)。第三番 = *dotike* = *dativus* ト訳サレタ。 *Gebefall* 興ヘルト云フ意味デ。第四番 = *aitia-tike* = *accusativus* トナツタ。コノ語源ハ

(55)

aitiatos = *bewirkt*, *beeinflusst*, *effected* 影響サレルト云フ意味デアツタ。所ガコレガ *Latin* デハ *accusativus* ト訳サレタガ本末ハ *Anklagefall* 訴ヘルト云フ意味デアツタ。何故カ、ル用語ヲ用ヒタカト云フニ、ギリシヤ語 = 訴ヘルト云フ語ハ、*ai tiaomai* = *ich beschuldige*, *klage* ト似テキルノデ、訳語ノ混同ガ生ジタノデアル。第五番目 = (*nomi*, 一番目トスルト)。 *Kletike* = *vocativus* トナツタ。コノ様 = *Stoic* ハ格ヲ五分シタ。

尚又彼等ハ品詞ノ別ヲ立テタ。即チ *Articulus* ト訳シタ。コレハ普通ノ *article*、他 = 代名詞ヲ含ミ、*Articulus* = 対シタ *nomen* ヲ立テル等、種々功績ガアツタ。

以上ノ如ク、ギリシヤ語デアハ幾分ハ文法的ニ研究サレタガ、ソノ根本ハヤハリ論理的、哲學的デ、言語ソノモノ = 開ルル研究ハ栄エナカツタ。

然ルニ、B.C. 2-3世紀ニナルト、世間ノ人ハモハヤ、ギリシヤノ古文獻ヲ讀ムコトガ出来ナクナリ。コノ古文獻ヲ読破セントスル動機カラ、ギリシヤ語ソノモノノ研究ガ開カレタ。シカシ、

(56)

ソレハギリシヤ本土ニ起ツタリテハナリ。エジプトノ Alexandria ト Pergamon ニ於テ起ツタリテアル。ソシテ、コノ時代ニナルト、前述ノ自然、人定ト云フ問題ハ、Anomalie ト analogie ト云フ名称トナリ。コノ標語、下ニ又繰返サレ。Pergamon ニハ Anomalie ヲ主張スル入ガ多ク居タ。ソノ代表者ニ Krates ガ居リ。Alexandria ハ Analogist ノ本場デ。ソノ代表者トシテハ Aristarch (アリストアーク) ガ居タ。

又、Alexandria ト Pergamon ニハ非常ニ大切ナギリシヤノ文献ガ保存サレテキテ、ソレガイロイロノ方言ヤ、ソノ他ノ語デ混ジテ、混沌タル有様デアツタノヲ、正シク解釈スルノガ緊急ノ問題デアツタガ、亦ニ Homer ノ本ガイロイロノ方言ヲ書カレテキルノデ。ソレヲ正スルメニギリシヤノ方言ノ研究ガ起リ。ソコニ文法ニ関スル研究ガ起ツテキタ。

コノ種ノ文法書トシテ最モ早イノハ Aristarch 派ノ人デ Dionisios Thrax. B.C. 100年ノ文法デアル。ガ、コノ文法ハソノ模範正カレテ Apollonios Dyskalos (A.D. 2) トソノ子

(57)

ノ Herodian ノ手ニヨリ完成サレ。コレガ後ノ Latin 文法ニ大キナ影響ヲ與ヘタ。コノ派ノ人ハ Aristarch 以来確立サレタ 8 品詞ヲ論ジテキル。nomen 名詞、verbum 動詞、Participle 分詞、Articulus、Pronomen、Prepositio、Adverbium、Conjunctio。尚、コノ文法デハ、音韻ノ方ハ印度ホドニ進歩ハシナカツタガ、音節ノ中ニアル音ヲ標準トシテ(音ソノモノデナク)、例ヘバ、vocales、コレニ対シテ consonantes ニ分ケタ。ソノ起源ハ vocales = "selbstlaute" 自分自身デ我々ノ耳ニ聞キ得ル音、consonantes = "mitlaute" 母音ト合シテ、發音サレル音デアル。Syllable ノ場合ヲ考ヘテキル。尚又、mitlaute ノ半母音、l, m, n. semi vocales ヤ mut 黙音ニ分ケタ。尚又、コノ書デハ Syntax、Accent ニツイテモ研究サレテキル。

ギリシヤニ於ケル言語研究ハ、大体以上ノ如クデアツタ。

第三節 ローマに於ける言語研究

伊太利ノ南方ニハ古クカラ、ギリシヤ人ガ移住シテキタガ、伊太利人ニハギリシヤ語ノ研究ガ起ラナカッタ。何時頃ギリシヤ文法ヲ知ツタカト云フニ、伊太利人ガ B.C. 167年ニ Krates ガギリシヤノ使者トシテ伊太利ニ行キ、永ク滞在シタ。彼ハソノ時ギリシヤノ文法ニ関スル講演ヲシテ、知識階級ノ注意ヲ惹イタ。前ノ *anomalie* ヲ *analogie* ニ関スル思想ヲ傳ヘタコトハ明ラカデ、ソノ証拠ニ、シーザーガガルチヤ方面ニ出征シテキタ時ニ、" *de analogia* " (今ハナン) ト云フ語學上ノ書ヲ書イタト云ハレル。恐ラク偶然アハナク、シーザーガ *analogist* デアツタト思ハレル。

尚、シーザーハ *ablativus* ヲ新ラシク設ケタト云ハレル。ギリシヤニハナイ。コノ様ニシーザーハ興味ヲ語學ニ有シテキタ。

ソノ他、専門ノ語學者デハナイガ、*Aelius Stilo* ガ居タ。

ス、シーザート同時代ノ人ニ *Varro* ト云フ人 (*Marcus Terentius Varro*, 116-27)

ガ居タコトヲ忘レテハナラマ。彼ハ文法上ノ沢山ノ著作ヲシタ様デアルガ、今日残ツテキルノハ *de lingua latina* ガアルダケデアル。コノ人ハ *analogie* ト *anomalie* ノ中間ニ立テ、イロイロ語尾変化ト云フ点ニ於テモ、ニ通りアルコトヲ述ベテキル。一方ダケデハ不充クデアル。例ヘバ、*a* デ終ル語ヲ女性デアルトシテモ、例外モ沢山アルト云フ。彼ハ文法ニアル例ヲ出ス場合ニ、ギリシヤ語デハナク、*Latin* ヲ取ツタノデ、*Latin* ノ歴史的な研究ヲスル人ニハ大ニ便利ヲ與ヘタ。

コノ様ニシテ、次ノ代ニハ、次第ニ *Latin* ノ文法ガ立派ニ築カレタ。ソノ中 *Roma* ノ文法家トシテ舉ゲラルベキ人ハ、A.D. 360 *Donat*、A.D. 500 *Priscian* ガ居ル。ニ人ノ書イタ本ハ後世ノ語學研究ニ非常ニ大キナ影響ヲ與ヘ、第十九世紀ノ *terminology* ハ多クハ、コノ古い時代ノ術語ヲ用ヒテキル。

元来、ギリシヤ人マローマ人ハ言語ノ研究ノ場合、時學上、已ムヲ得ナカッタカモシレヌガ、偏狭ナ考ガ多イ。一方ニハ哲學的考ガ多クテ、實際

(60)

上ノ言語ノ觀察ヲ怠ツタコト(自尊心ガアツタノ
カモシレヌ)、第ニハ自分等ノ言語ダケヲ認メ
他ノ言語ヲ考慮ノ中ニ入レズ、従ツテ、彼等ガ語
源ヲ論ズル時ニハ、イタズラニ *onomato poetic*
ト考ヘヌ。 *laut symbol* 的ト考ヘテ有シテ、
又語源ヲ説キニ、音ヲ勝手ニ縮約シタ。例ヘバ
laut symbolic ノ一例トシテ、コノ時代ノ
Augustinus (A.D. 430+) ハ、*V*ヲ含ム語
ハ、程イ濃(厚)イト云フ意味ガアルトシタ。 *ven-*
ter (*strong*), *vafer* (*stout*),
vinum (*wine*)。秋田ニモ、音義論ト云フ
同様ト考ヘガアル。

contradict (縮約)ト云フノハ、例ヘバ
vulpes (*vulpes fox*)ニ対シテ、*Varro*
ハソノ語源ニ対シテ曰ク、

quod volat pedibus 足ガ飛ブモ、ガ
本デアルト。

コノ様トコトハ、主トシテ、ギリシヤ人々ロー
マ入ガ廣ク他ノ言語ニ注意ヲ拂ハズ、従ツテ自國
語ノ歴史的・比較的研究ヲシナカツタコトニ起
シテキル。

(61)

然ルニ時勢ガ移リ、ローマ人ハ自國語以外ノ言
語ニ接スルコトニナツタ。ソノ原因ハ、文明人ト
野蠻人トノヘダタリヲ認メヌ、人種平等ヲ主張ス
ル所ノキリスト教ガ廣マツタコトデアル。勿論、
古代ノ入デモ、悉ク野蠻人ノ言語ヲ無視シタノデ
ハナリ。 *Barbars* ノ語カラギリシヤ語ハ古イ
時代ニ借用シタモノデアルト *Kratis* ハ又ツテ
キル。シカシ、イロイロノ言語ガ同等ニ地位ヲ回
メタノハキリスト教ノ普及デアリ。ソノ結果トシ
テ、三世紀カラ *Koptish* 聖書ノ翻訳、ゴシツク
アルメニヤ、ケルト語、ソノ他ノ古イ語ノ翻訳ガ
アラハレル様ニナツタ。

第四節 中世以後、近世初期迄ノ言語研究

前述ノ如ク、キリスト教ガ宣布ナレル様ニナリ、
イロイロノ言語ガ認メラレル様ニナツタ、デアル
ガ、ソレハマダ言語學ト云フ學問ノ上ニ影響ヲ與
ヘルマデニハナツテキナカツタ。當時ノ歐洲ハ
Latin ノ偏重ノ時代デ、多クノ國ニ於テハギリ
シヤ語ノ學習ニ怠ル様ニナリ、*Latin* ガ主トナ

(62)

ツタ。シカモ、當時ノ人ハ *Latin* ト云ツテモ、
割ニ新ラシイ中世ノ文法書ヲ用ヒズ、古イ文法家
(例ヘバ、ドナート、クリスタヤン) 等ノ書ヲ使
ツテキタ。ソノ証拠ニ *Donatus* ト云フ語ハ、
元来個有名詞デアツタガ、ソレガ文法ト云フ意味
ニ用ヒラレル様ニ変ルシク、例ヘバ *Donatus*
pro puerilis 子供等ノ文法、ト云フ様ニナツ
タ。

コノ 12-3 世紀頃ニ、他ノ *Latin* 以外ノ
言語ノ文法書トシテアテハレタモ、ハ極メテ稀デ
タビ小サイ *Sceland* ノ文法トカ、佛ノプロバ
ンサーノ地方ノ文法、又ハウエールス語ノ *Kym-*
rish ト云フ様ニ小サナモノデアツタ。

コノ様ニ、中世カラ近世ニ移ツタ時ニモ *Latin*
ガケガ尊重サレテキタ。

近世初期ノ文法學者トシテハ

Julius Caesar Scaliger デ、イタリ-
人デ、本名ハ *della Scala* (1484-1558)。
ソノ他、*Robert Stephanus* (1503-1559)。
コノ人ノ子供ノ *Henr. Stephanus* (1528
-1598) 等ガ居タガ、コレモ單ナル文法學者
デ、言語學ヲ促進スルカヲ有タナカッタ。

(63)

前ガ *Renaissance* ト共ニ言語學モ生氣
ヲ帯ビテ来タ。即チ、世間ノ人ハ古典語ノ研究ト
相並ンテ東方ノ言語ノ研究、即チセムテ-
ク(ヘブライ、アラビヤ、シリヤ) 等ノ研究ニス、
ム様ニナツテ来タ。*Joseph Justus Scaliger*
(前、*Scaliger*) 子供ガアル) ハ哲學者トシテ
有名デアアルガ、コノ人ガ初メテ全歐ノイロイロノ
言語ノ分類ヲ試シ、コレヲ 17 大言語ニ分ケ、
更ニ小サイ *dialect* ニ分ケタ。

ソノ頃又、言語學ニ新生面ヲ開イタノハフラン
スノ *Pierre de la Ramée* (*Latin* 名
Petrus Ramus) (1515-1572) ガフラン
ス語ノ文法ヲ書キ、ソシテ、1572 年ニハ更ニ
増補ヲ加ヘ、ソレハ音韻論ト屈詞論ニ分レテキル。

尚、コノ派ニ屬スル人デデンマーク人 *Jacob*
madsen (*Aarhus*) (*Latin* 名 *Jacobus*
matthias, 1536-86) ガアリ、デンマーク
語ノ音韻語法ヲ明ラカニ説明シタ。

コノ様ニシテ、イロイロノ言語ノ研究ガ盛ンニ
ナツタ。例ヘバ、ローマンス語ノ方向ニ於テハ
ménage (1613-1692) ガフランス語ノ語
源辭書 (1650 Ed.)、同氏ノイタリ-語起源

(64)

(1684)ヲ書キ、*nord* 語ノ方面(アイスラ
ンド等)ニ於テハ *Peder Syv* ガ *Cimbrisk*
(ノルド語及ビ廣クゲルマン語ヲ指ス)ヲ研究シ、
スエーデンノ人ア *J. Ahre* ガ語源辞書ヲ著ハン
タ。又、ヘブライ語ニ関スル研究モス。ソノダ。元
末聖書ニシルサレテキル語ニ基キ、世人ハ、元
末世界ノ言語ハーツヂ *Hebrew* 語カラ出タト
考ヘテキタ。神學者ノミナラズ、言語研究者モ、
ソノ様ニ考ヘテキタノデ、例ヘバ *Etienne*
Guichard 等モ 1606年ニ、言語ノ *Etymol-*
ogy ニ関スル書ヲ書キ、ヘブライ、カルデア、
シリヤ、ギリシヤ、ラテン、フランス等ヲ一統ニ
シテ同系同源デアルト唱ヘタ。シカシ、學ノ進歩
ト共ニコレ考ヘハ支持サレナクナツタ。

次ニイロイロノ言語資料ノ蒐集時代ガ来ル。

前述ノ如ク、言語學界ハイロイロノ研究ニ目ザ
メ、ソノ系統論モ次第ニ進ンダガ、ソノ際研究法
ニ新ラシイ方法ヲ採ジテ貢獻ノアツタノハ、哲學者
者ノ *G. Wil. von Leibnitz* デアル。彼ハ先
ヅ當時ノ歐洲ニ行ハレタ歐洲語ト *Hebrew* 語同
一語ニ對シテ異向カラ反對シタ。彼ハ言語ノ關係

(65)

ヲ知ツテ、ソレヲ分類スル場合ニハアラユル言語
現象ヲ知ラネバナラヌ。單ニ從來ノ如ク古典語ノ
ミニカテ注イデハ正シイ結論ハ得ラレヌ。ソレニ
ハ手近ノ現代ノイロイロノ言語現象ヲ明ラカニス
ベシト主張シ、ソノ材料ノ蒐集方ヲ當時ノ探險家
ヤ宣教師ニス。メタ。ロシアノ *Peter* 大帝ニソ
ノコトヲ献言シタガ、充分ニソノ目的ヲ達セテレ
ナカツタ。然レ、コノ氣運ハ自然ニ熟シテ、旅行
家ヤ宣教師ニヨリ、イロイロノ語ヲ書イテ聖書ノ
アル部分ノ訳ト云フ物ガ次第ニ現ハレ、所謂

Polyglott ノ事業ガ次第ニ發達シタ。

コノコトニツイテ特ニ我々が注意スベキハ、ロ
シヤノ女王カタリナII世ガ(1706-96)、早ク
カラ、世界ノ各言語ニ於ケル語彙ノ採集ヲ思立ツ
テ居ラレ、スベテノ言語ニ翻譯デキル多クノ語彙
ノ *list* ヲ作ツテ、ソレヲ、ロシアノ帝國內ダ
ケデハナク、外國ニ派遣サレタ使者ヤ學者ニ送り、
世界ニ於ケル言語ノ語彙ヲデキルダケ多ク集メタ。
併シテ、カザリンIIハ自分ノ手デソレヲ完成シ
得ズ、後ニナリ旅行家、自然科學者トシテ有名ナ
Peter Simon Pallas (1741-1811)
ニ依ツテ完成サレタ。コノ大事業ノ第一篇ガ

(60)

1781-1787 = カヤフ、*Linguarum totius orbis vocabularium comparativa* ト云フ書トナツテアラハレタ。コノ中ニハ、アジア洲ノ言語ハ、149種、ソノ中ニハ日本語、朝鮮語、数詞、歐洲語ガ91、合計200デアル。後ニナツテソレハ、1947年、修正サレ、四巻トナリ、アフリカ、アメリカノ言語モ含マセテ合計272種ノ言語ヲ含ムコトニナツタ。

コノ事業ニ次ギコノ種ノ事業ノ大キナモノハ、スペインノ *Lorenzo Hervás* (1735-1809) (後半生ハイタリー) ガ大キナ着書ヲ作ツタ。27巻、ソノ中ニ言語ニ関スル部分ガアル。イタリー語デ書カレタガ、ソノ後、ソノ部分ヲスペイン語デ書キ、増補シテ *Catálogo de las lenguas* ... (1800-1804) トナツテアラハレタ。Hervás ハコノ中デアメリカ、アジア、歐洲ノ300種ノ言語ヲ取扱ヒ、尚注意スベキコトハアメリカノ40種ニワタル土語ノ文法ヲモ書キ入レタ。彼ノ考ヘハ、言語ノ研究ニヨリ民族ノ移動ヲ説明セントスルノガ元来ノ目的デアツタラシイ。

尚、コレト同じ仕事ヲシタ人ニ *Johann*

(61)

Christoph Adelung (1732-1806)。彼ノ著書 *Mithridates oder allgemeine Sprachenkunde* ... (1806-1817) ガ4巻、トナツテアラハレタ。コノ中、一巻トニ巻ノ一部ハ彼ガ編輯シタ。ガ残りノ所ハ、別ノ人 *Johann Severin Vater* (1771-1826) ガコレヲ完成シタ。併シテラ、コノ本ノ内容ハ極メテ通俗的ナモノデ、イロイロノ言語ノ説明ニハ詳細ナ所ト簡略ナ所ガアリ、學問的ニ價值ハナイト云ハレルガ、廣ク材料ヲ集メタ点ニ於テ、後世ニ益スル所大デアアル。コノ本ガ言語ノ配列ヲスル時ニハ、地理的ニアジア、歐洲トシテアルガ、後ノ *Vater* ノ部分ニハ幾分系統的分類ヲシタ所ガアル。ソカシ、系統的ト云ツテモ、今日カラ見ルト間違ツタ所ガアル。例ヘバ3巻ニルーマニヤノ言語ヲ他ノ Romance 語カラ分ケハナシタ点、又ハハンガリーノ語ヲアイノグリツシカラ取りハナシタ間違ツタ点モアルガ、廣ク豊富ナ材料デ後世ヲ益シタ。

コノ様ニイロイロノ研究ガアツタガ、哲學的研究ガアリ、例ヘバ *Herder* ハ1772年ニ言語ノ起源ニツイテ論ジテキルガ、コノ方ニハ甚シイ連

(68)

券がナクテ、大体この時代ハイロイロ、文法書ヤ言語ノ蒐集ノ時代デアッタ。

尚、以上ノ人々、他ニ、ハンガリーノ言語學者トシテ *Gyármathi* ハハンガリー語トフィンランド語ノ間ノ文法的一致ヲ論ジタノハ著シイコトデアアル。而シテ *Rasmus Kristian Rask* (1787-1832、デンマーク人) 印度歐洲語ノ比較研究ヲシタコトハ、語彙蒐集、他ニ新フシイ方面ヲ開イタコトハ非常ニ注意スベキデアアル。コノ人、名著トシテハ、ドイツ訳トシテ(原本ハデンマーク語)古イノルド語、*Untersuchung über den Ursprung der alten nordischen oder isländischen Sprachen* 即チ、イスラントノ起源ニツイテノ研究ヲ1814年ニ完成シタリテ、ソノ中印度、方ニ旅行シ、旅行後1816年ニ発表シ、學界ノ懸賞論文ニ當選シタ。コノ論文、後、方ニ、*Thrakisk* ト云フ論題ガアルガ、コノ部外ヲ *J. Vater* ガドイツ語ニ翻譯シテ *über die Thrakische* (スラキヤ)ノ名ノ下ニ1822年ニ出版シタ。

コノ *Rask* ノ言語研究ニ対スル根本的態度ハ即チ、從來ノ語源學ハソノ目的トスル所ハ單ニ語

(69)

ノ説明ニトマツタガ、ソレデハイカヌ。實際上ノ言語現象全体即チ語尾変化等全体ノ傾向ニ向ツテ觀察ヲス、メネバナラヌト考ヘ、又言語ノ比較ヲスルニハ單ニ語彙ノ上、一致ハ餘リ信用デキヌ。ムシロソレヨリ文法上ノ一致ヲ証明スルコトガ必要デアルト考ヘ、從ツテ語ノ意義、変遷ヲ明ラケニスルタメニハ語根ヲ他ノ部外ト引キハナシテ考ヘル必要ガアル。ソノコトヲ考ヘルタメニハ、親族語間ノ音韻変化ノ規則ヲ確立スル必要ガアルト考ヘタ(ソレカラ、意義、変化ハ語根ヲハナシテ區別シナケレバナラヌト)。コノ様ニ根本思想ノ下ニ、彼ハ先ヅ *Isländ* ノ語トゴート語トノ關係ヲ論ジ、ソノ結果 *Isländisch* ハ *Greenlandisch* ト關係ハナク、*Celt* 語トモ關係ハナク、*Baskischen* トモ無關係デアリ、*Finnischen* (フィンランド、ラップランドヲ含ム)トモ關係ガナイ。關係アルノハ *Slav* 語ト *Lettisch* (コノ中、殊ニ *Litanisch* 語)ト、コレヲノモリト關係ガアルト云フコトヲ結論トシテ論ジタ。ニ番目、*Isländisch* ト *Celt* トノ關係ハ關係ハナイトシタガ、*Celt* トゴートハ元來關係ハ論ゼラレナカッタガ、ソノ後1819

(70)

年頃 Celt 語ガ印度ゲルマント同一語族デアルト述べ、關係ガアルト訂正シテキル。又、*Isländisch* ト *Thrakisch* (ギリシヤ、ラテン)トノ比較ヲシテ、文法上ノ構成ニ非常ニ密接ノ關係ノミナラズ、單語ノ上ニモ關係アルコトヲ論ジタ。ソノ結論トシテ、ノルド語ト *Germanisch* ハ非常ニ深い關係アルモノデ、元カラニツニ分レテ同等ノ關係ガアルト述べ、ノルドトゲルマントハ *slav* ト *Lett* 語ト共ニソノ本源ヲ *alten Thrakisch* カラ發シタモノデアアル。(四ツノモノハ *alten Thrakisch* カラ發シタ)ト云フ。*alten Thrakisch* トハ何ヲ意味スルカト云フニ、ソレハ殊ニトラキヤ地方ニアルト取ラズ、南歐ニ於テ嘗ツテハ存在シタ所、即チ今日デアハ余ラズ 死滅シタ *Grund sprach* デアルト云フ。ソシテ、ソノギリシヤ、ラテン語ハ、ソノ源始語ノ一番古イ殘存物デアアル(ソノ以外ノモノハ、スラブ、ゲルマンニナル)。ソレガ又、アイスランドノ語根ト一致スルモノガアルト論ジタ。即チ、源始語カラ歐洲語ガ出タ。

Rask ハ初メハサンスクリットニ手ヲツケルコトハ殊ニシナカツタガ。比較研究ノタメニハソ

(71)

レヲモ研究スベキトナツタ。1823年マデ、東歐、ペルシヤニ旅行シテ、印度ニモ滞在シタガ、彼ノ見解ハソノ後ト雖モ変ハラナカツタ。サンスクリットニ興味ガナカツタ。ソノ一原因ハ、彼ノ後半生ハ一般言語研究ヨリ、正字法ノ問題、一般的デンマーク語、スペイン語ノ文法ヲ書クノニカヲ注イダケメデアアルト云ハレル。又、彼ノ研究法ハ言語ノ歴史的な研究法ニハ偉大ノ功績ハナイ。彼ノ得意トスル所ハ沢山ノ言語資料ヲ彼ノ *system* ノ下ニ整理・分類シテ、明ラカニスル点ニアツタト思ハレル。併シテ、彼ノアイスランド語ノ研究及ビゲルマンノソレノ比較研究ヲシタト云フコトハ、彼ノ最も光輝アル仕事ト云フベキデアアル。而シテ、彼ノ論文ハ多クハデンマーク語デ書カレ。廣ク歐洲ノ學界ニ廣ガラナカツタ欠点ガアルガ、一部分ガ翻譯サレテ、僅カニ知ラレタニスギナイデアアル。

後述ノ *Grimm* 等ハ *Rask* ノ研究ニ *hint* ヲ得タコトハ明ラカデアアルガ、ドイツ語ヲ利用シタタメ、*Grimm* ヲシテ名ヲナサシメルコトニナツタト云ヘル。

(72)

第五節 サンスクリットノ発見
紹介、ソノ後ノ言語學

第十八世紀、言語ガ勃興シカケタ時代ニ新ラシ
イ活カヲ興ヘタモノハ、サンスクリットノ発見ト
紹介デアアル。即チ、第十八世紀ノ終リニ印度ガ英
國ノ領土トナリ、ソノ結果サンスクリット語ガア
ルコトガ歐洲ニ紹介サレタ。勿論、ソレ以前ニコ
ノ古イ言語ニ注意ヲ拂ツタ人ハナイコトハナイ。
我々が最も注目スベキハ、英人ノ *William*
Jones (1746-1794) デアル。印度ノ
Calcutta ニアジヤ協會ヲ創立シ、サンスクリ
ットヲモ研究シタガ、1786年ニ発行シタ *Asi-*
atic Research ニ於テ次ノ意見ヲ発表シタ。
サンスクリットハソノ古サノコトハヨク分ラヌニ
シハ、驚クベキ構造ヲ有スル古語デ、ギリシヤ語
ヨリ完全デ、フテンヨリ形ガ豊富デ、ソノ何レヨ
リ精巧ニ *refine* サレテキル。シカモ、動詞ノ
語根ニ於テモ、文法ノ形ニ於テモコノ兩者ニ
strong affinity ヲ有シ、決シテソノ類似ガ
偶然ニヨツテ生ジタトハ思ハレナイ。ソノ關係ト
云フモノハ非常ニ強イノデ、苟クモ言語ヲ研究ス

(73)

ル人デアラナラ、コノ三ツノ言語ヲ、今日ハ恐ラ
ク存シテキナイダラウガアル共通ノ根源カラ、出
発シタモノデアラウト云フコトヲ信ゼザルヲ得ナ
イデアラウ。ソノ上、前述ノ様ニ明白ニ断言デキ
ナイカモシレナイガ、ゴート語、ケルト語モサン
スクリットト共通ノモノデアラウ。而シテ、古イ
ベルシヤ語等モ同ジ語族ニ入ルモノデアラウ。ト
述ベタ。コノ様ニ *Jones* ハ印度ノ大詩人トシテ
有名ナ *Kālidāsa* , *drama* , *Sakun-*
tala ヲ訳シタ。

尚、*Jones* , 他ニサンスクリットノ研究者
トシテハ、*H. Th. Colebrooke* , *Ch. Wilkins*
ガアリ、サンスクリットノ文法ヲ書イタリ、翻譯
シテ出版シタ。コノ様ニシテ歐洲ニ紹介サレタ。

サンスクリットノ紹介ハ、初メハ英國人デアツ
タガ、後ニハフランス、更ニドイツニ移ツタ。即
チ、ドイツデ初メテコノ語ニツイテ研究ヲ発表シ
タノハ *F. von Schlegel* (1772-1829)
über die Sprache und Weisheit der
Indier , 1808. (有名) ニ於テ曰ク、(大体
コレハ *Schlegel* ガ哲學的考察シ、イロイロ
ノ言語ノ特質ヲ研究シ、一カソレヲ基礎トシ、

(74)

ソレカラ印度) 文化的研究ノ必要ヲ説イタモノデア
アル。) コノ書ノ中デ注意スベキコトハ、Schle-
gel ガ言語ノ基本的分類法トシテニツノ性嘆ヲ
考ヘルコトガ必要デアルト述ベク点デアル。

1. 意義ノ変化ガ語根ノ音ノ変化(内的)ニ依
ツテアラハサレテキルモノ。 man = men
ガアル様トモノ。

2. 外ノ語ヲ引キツケル(外カラ)。

ト云フニツニ分類ノ標準ヲ考ヘルコトガ必要デア
ルト述ベク。コレガ、次ニ来ル言語ノ形態論、系
統論ニ重大ナ影響ヲ與ヘタ。

Fr. von Schlegel ノ兄 = August
Wilhelm von Schlegel ガ居タ。(1767 -
1845)。コノ人モ當時言語學者トシテ有名デ、
1819 - 1830 マデ Indische Bibliothek
ヲ発行シテ、サンスクリットノ文學・語學ニ關ス
ル研究ヲ発表シタ。

次ニ Franz Bopp. 1791 - 18
彼ノ名著トシテハ

Über das Conjugation System der
Sanskritsprache im Vergleichung
mit jenen der griechischen, latei-

(75)

nischen, persischen, germanischen
Sprachen. 1816.

コノ書ノ一版ハ、前述ノ Rask ノ懸賞論文ノ
発表ヨリニ年後デアルガ、事實ハソレヨリニ年前
ニ出来上ツテキタ。内容ハイロイロ似タ点ハアル
ガ、事實上ノ交渉ハ先ツナイト見ラレル。

Bopp ハ Rask ト同ジク、言語ノ比較ヲスル
ニハ文法上ノ構造ト云フ点ニ重キヲオクコトヲ説
キ、主トシテ動詞ノ語尾変化ニ重キヲオキ、ギリ
シヤ・ラテン等ノ上述ノ語ノ語尾ハ共通ナ起源ニ
戻スコトガ出来ルモノダト論ジタ。例ヘバ "as"
ガ sein ノ意味スル語根ガサンスクリットヤギ
リシヤデハ s デアラハレ、又ソレガ動詞ノ過去ヲ
作ル Aorist ノ作ル記号トシテ用ヒラレルノミ
ナラズ、又形ハ非常ニ変ツテキルガ Latin ノ
Passive ノ記号トシテ —t モ S ノ変形デア
ル(amor)。ソレカラス、コノ形ガ Isländisch
ノ Passive ノ st ニモアラハレテキルト論ジ
テキル。

Bopp ト Rask ノ方法ヲ見ルト非常ニ似タ
点モアルガ、違ツタ点モアル。コノ点ニ對シ
Tomson ガ曰ク、Bopp ト Rask ノ見解ハ第

(76)

一目標が違フ。Boppハサンスクリットニアル豊
富ナ語形ヲ利用シテキル。ソレテソノ間ニ根柢
ガアル。シカシ、Raskハ方法ハ明白ナSys-
temヲ有スルガ、サンスクリットノ細カイ点ニ
注意シナカツタ。ト述ベラキル。

Boppハソノ後モ研究ヲス、ソレニ次ガ
大キナ本ヲ書イタ。

Vergleichende Grammatik des San-
skrit, Send. Armenischen, Griechi-
schen, Lateinischen, Litauischen,
altslawischen, Gothischen und
deutschen.

大キナ比較研究ヲシタ。但シ altslawischen
ハ第一巻ニ附加サレタ。Armenischハ二版ニ
於テ附加サレタ。初版 1833-34年。二版ハ全
部改修サレ。1857-61。三版ハ改修セズ

1868-70。即チ彼が死ンテカラデアアル。而シテ
佛ノ Bréalガ 1876年ニカケ立派ナ佛語ニ訳
シタ。有名ナ本デアアル。

Boppノ比較研究法ハ如何ナル立場ニアルカ
ト云フニ、彼ハ常ニ Sanskritヲ研究ノ出発点
トシテキル。即チ、印欧語ノ原形ヲ Sanskrit

(77)

ニ求メ様トシタ。彼ハ印度ノ文法家ガ行ツタ様ニ
語ト云フモノハ如何ニ成立スルカト云フニ、一音
節ノ語根カラ派生シタモノデアアルト考ヘタ。而シ
テソノ語根ニ種アル。

1. 動詞的語根

例ヘバ *as = sein*, *tan = dehnen*.

コレガ動詞的語根デ、コレカラ動詞、名詞ガ
生レル。

2. 代名詞的語根

ta, ma。コレカラ代名詞ハ勿論、助詞ソ
ノ他、*article*ノ部分ガ生レル。

又、名詞ノ語尾変化、動詞ノ語尾変化ニ
テハレル変化ノ大部分ハ、代名詞的語根カラ
発達シタモノデアアル。例ヘバ、第一人称ノ語
根ノ *-mi*ハ *< "ma" (mich)*ト云フ
代名詞カラ変ルシクモノデアアル。第三人称單
数ノ *-ti*ハ *< "ta"*ト云フ指示代名詞
カラ発達シテ来タト考ヘル。

ツマリ、インド・ゲルマン語ノイロイロナ言語
ニ存スル各々ノ語尾形式的部分ハ、元ハ独立シタ
語根デアツタガ、ソレガコレガ附加セラレル頃ニ
ハ重要ナル部分ニ附加サレテ膠着ノ性質ヲオビテ

未々モ、デアル。例へバ、*amari*、*vi*、*element*、*Sanskrit*、*bhu*、*Latin*、*fui* ト云フ故立シタモノカラ変化発達シタモノデアルト。コレガ彼、考へノ中心デ、コノ説ハ後世ニ非常ニ影響ヲ與ヘタガ、餘リコノ説バカリヲ主張シタノデ、却ツテ失敗シタ所が見エル。

Bopp ハ上述ノ本ノ他ニ、*Sanskrit* ノ語彙ヲ集メタモノ (1830)、ソノ他、マレー、ポリネーシア及ビソレト印度歐語 1840 トノ關係ヲ論ジタモノガアルガ 上述ノ本ヨリ價値ガ劣ル。

Bopp ト相対比スベキ言語學者トシテハ、ドイツニ *Jacob Grimm*。

コノ人、有名ト書ハ *Deutsche Grammatik* デ、第一卷ハ 1819年ニ出版サレ、第一卷ノ再版ハ修正ガ加ヘラレ、1822年ニ出テキル。コノ年ハ Bopp ノ比較研究ノ初版ヨリ 10年ホド以前デアル。ソシテ、第一卷ノ再版ヲ見ルト、ソノ半分以上ハ音韻論デアル。コノ *Lautlehre* ハ第一版ニハ無カツタト云ツテモヨイ。何故コレガ現ハレタカト云フニ、コレハ明ラカニ、*Rask* ノ懸賞論文ノ影響ヲウケタモノト考ヘラレル。コノ

deutsche Grammatik ハ四卷デアルガ、最後ノモノガ 1877年ニ出テキル。

コノ本ハ *deutsche* ト云フ名デアルガ、ソノ内容ニ於テハ今日ノドイツデハナク、ゴート、ゲルマン諸言語ヲ意味シ、ソレヲ言語ノ歴史的研究所シタモノデ、Bopp ノ比較研究ト相並シテ不滅ノ名著ト云ハレテキル。

サテ、*Grimm* ノ歴史的研究所中最も重要トモノノ一ツハ、ソノ音韻ニ關スル部分デ、即チイロイロナ言語(ゴート、ゲルマンノ)ニ於ケル音ノ相對ノ現象ヲ研究シタモノデアル。例へバ、ゴート、ゲルマン語ニ於テ、語頭音ニ摩擦音ガアルガ、ソレハ他ノ語ニハ *p, t, k* トナツテアラハレテキル。

f, ch, p, h.

p, t, k,

例へバ、

(*Lat.*) *pater* = (*altish*) *faθir*.

tu = *pú*

cornu = *hornu*

ソレヲラス。

Got.-Ger. *t-*, *k-*

d-, g.

Lat. *duo* = *altisl tueir*

genn *kné*

ソレカラズ 古ノ本末ノ語 *aspirate* サレタ
語. *bh-*, *dh-*, *gh-* : Gr. φ (*ph*),
 θ (*th*), χ (*kh*), コレヲハ、ゲルマンノ
ガフハ、*b-*, *d-*, *g-*, トナツテアラハレ
ル。

例ヘバ Gr. *phero* = *altisl hera*
thera = *dyrr*
khole = *gall*

ノ如キ現象デアル。

コノ様ノ規則ヲ彼ノ *terminology* = ヨルト
Lautverschiebung ノ規則ト云フ。コノ規則
ヲ後世ノ人ハ *Grimms Gesetz* ト稱シ、音韻
推移ノ規則トシテ言語學上重大ノ地位ヲ占ムル様
ニナツタ。然シ、コノ規則ハ *Grimm* - 入ノ発
見デアナク、前ノ *Rask* ガ考ヘ、*Grimm* ガ擴
張シタ。

コノ様 = *Rask* ト *Grimm* ハ相似ク思想デ
アルガ、異ツタ点モアル。例ヘバ、*Rask* ノ方ハ
動詞ノ發達、第一義トシテ規則動詞ガ過去ヲ作ル

= *elske - de* (*lieb - te*) ノ様 = *te*
ヲ付ケテアラハシ、*tænke - te* (*dach - te*)
ノ如キ規則動詞ヲ第一義トシ、第二義トシテハ
binde, *bandt*, *bundet* ノ様ノ發変化
ヲ (*binden*, *band*, *gebund*) アゲテキ
ル。

所ガ、*Grimm* ノ方ハコレト反対ニ、發変化
ノ方ヲ初メニ置キ、規則動詞ヲ後ニシタ。*Grimm*
ハ何故發変化ニ重キヲ置イタカト云フニ、ソノ中
ニアラハレル。母音ノ變化ハ *innerst* 入内ノ
心ノ底カラ生レタ構造デ、コレハ動詞ノ中デ最モ
古ク、根本的ナモノデアアルガ、弱變化ハ後ニ附加
サレタモノデ、發達歴史ノ上カラ若イモノダト考
ヘタ。

要スルニ、*Rask* ハ *Isländisch* 以外ノ
語ニ注意シナカツタ点ハ^{アル}全体的ニ見ル点 = *Grimm*
ヨリマサリ、又 *Grimm* ハ *Rask* ノ様ニハ全体的
の見方ハシナカツタガ、歴史的、実証的ナ点ニ於
テ *Rask* = マサルト云ハレル。

更ニ *Rask* ト *Bopp* ト *Grimm* ノ特色ヲ一括
シテ云フト。

Rask ハノルド語、殊ニ *Isländisch*、語

(82)

ノ研究ヲシテ、コノ語ノ印欧語ニ対スル關係ヲ明
ラカニスル点ニ功績ガアツタ。

Bopp ハ Sanskrit ト 歐洲語ノ比較ニ巧
ミニコレヲ利用シテ印欧語ノ基礎ヲ確立シタ点ニ
功績ガアリ。

Grimm ハゴート、ゲルマン語ノ歴史的研究
ニ於テ功績ガアルト云ヘル。

次ニ Wilhelm von Humboldt (1767-
1835)。彼ニモ言語ニ関スル著ガアル。例ヘバ
バスク語ノ研究、北米、マレー語ノ研究ガアルガ。
ソノ中一番有名ナリハ、

Über die Kawisprache auf der Insel
Java. 3 band (1836-40)
コレニ又次ノ如キ論文ガ附キ。ソレガ又有名デア
ル。Über die Verschiedenheit des mensch-
lichen Sprachbaues und ihren Ein-
fluss die Geistige Entwicklung des
menschengeschlechts.

ノ論文ガ最初ニ出テキル。哲學的見地カラ言語ヲ
全般的ニ見、イロイロ遠ツタ言語ト人類ト Geist
トノ研究、ソノ差異ノ原因、ソノ社会的な生活トノ

(83)

關係ヲ論ジテキル。事ガ具体的デ、從來ノ抽象的
ナモノヨリ言語學ノ発達ニ功ガアツタガ。中ニハ
抽象的ナ点モアルト云ハレル。

ソノ頃又デンマークニ、Bredsdorff (1790-
1841) ハ音聲學ノ研究ヲ秀レ、Madwig
(1804-86) ハ哲學的研究ヲ言語ノ起源ニ関スルモ
ノガアル。ソレカラ Aug. Fr. Pott 180
ノ著ノ中有名ナリハ、語源研究(印欧語族ニ於ケ
ル) Etymologische Versuchungen. 2 vol.
デアツテ、1833-36ニカケテ第一版ガ出タ。
コレハ表題ノ通り語源ヲ説イタモノデアルガ、ソ
ノ中、音ノ変化現象ノ規則ヲ詳説シテキル。又
Pott ト同時代ニ、Adalbert Kuhn (1812-
1881) ハ言語ノ研究ヲ土台トシテ比較神話學
ヲ研究シタ。而シテ、ニミノ雜誌ヲ出シテキル。
コノ頃(特殊研究)カラ、各種ノ言語研究ガ盛
ンニナツタ。

第一ニ サンスクリット方面。

Theodor Beuf (1809-81) ハ Sanskrit ノ
文法 (1855年)。Sanskrit ト English ノ
辭典 (1865年) ヲ出シテキル。

Westergaard (1815-78) E Sanskrit ノ歴史

(84)

的研究が世界ヲ益シタ。

Böhtlingk (1815-1904) ト Roth (1821-94) 共著、Sanskrit、辞典 7 vol. が出テ、コレヲヨリ、Sanskrit、性質ガ益、明ラカニナツタ。

第ニギリシヤ語ノ方面デハ、

Georg Curtius (1820-1885)、注目スベキ人デ、Grundzüge der griechischen Etymologie "ギリシヤ語ノ語源的な研究" (1858-62) が出タ。ソノ他、ギリシヤ語ノ時、mood、構成法ニ関スル研究ガアル。

Latin 語方面デハ、

Corssen (1820-1875) が Latin 語ノ發音、音韻組織、等ノ研究ガアル。

Romance 語方面

古リカラ研究サレタガ、19世紀ノ初メニフランスノ人、Raynouard がプロバンス語トソノ文法ニ関スル著作ガアルガ、一部分ノ研究デ、Romance 語全体ノ關係ハ明ラカデナイ。ソノ後ニナリ、ドイツノ Fr. Christian Diez (1794-1876)、Grammatik der Romanischen Sprache, 3 vol. が出テ、ソノ後

(85)

佛語ニモ訳サレタ。而シテ、コノ人ノ Romance 語ノ "源語研究" 2 vol. (1853) ガアル。良イ研究デ、Romance 語ノ建設者トモ云ハレル。尚ソノ後、コノ方面ニ於テハ、フランスノ Littré (1801-1881)、Gaston Paris (1839-1903)、Paul Meyer (1840-1917)、同じク Romance ノ方デモイタリー語ノ方デハ Ascoli (1829-1907) が出テ研究ガス。ンガ。

ゲルマン方面デハ、Rask, Grimm が出テカラ澤山出タ。

Litauish, Slavish ノ方デハ Schleicher がリタウ語ノ研究ヲヤリ、一方スラヴ語ノ研究デ功績ヲアゲタノハ、オーストリアノ人 Miklosich (1813-1891)。彼ノ本ニハ、スラヴ語ノ比較研究 4 vol. (1854-74)。ソレカラ、スラヴ語ノ語源辞典 (1886)。

Celt 語ノ方デハ、Zeuss (1806-1856) ガアリ、Celt 語ノ文法 (1853) ガ作ラレタ。然シ、コノ方ハ餘リ研究ハ多クナカッタ。

Semitic ノ方ニモ多クアラハレ、フィンガリ語ノ方面デモ沢山研究者ガアラハレタ。フィンガ

ランドノ人 *Castrén, Ahlqvist, Donner,*
Setälä, Paasonen, Wichmann,
 ハンガリーノ人トシテハ、*Budenz, Simonyi,*
 トルコ方面デハ *Thomsen, Radloff,*
 コノ様ニ研究ガ進ンダノデアル。

第六節 新言語研究ノ過渡期

言語學ハ以上ノ如ク 19世紀ノ中半マデイロイ
 ロノ方向ニ進歩ヲトゲタガ、ソノ頃カラ次第ニ研
 究ノ方法ニ一転廻ヲ来タレテキタ。

ソノ中心ニアツタ人ハ *August Schleicher*
 (1821-68)デ 最初ノ著述ハ言語ノ比較研究
 (1848年)デアル。コノ本ハ二部カラ成リ。第
 一部ハ "Zetascismus" ト云フ論文デ、アル
 子音ハ *j, y, i* ト舌ノ前方デ發音サレル音ニヨ
 リ変化スルコトガアル。例ヘバ、

Schwedisch *Kött, Giva*

Italy *Giorno*

French *jour*

コレハ元來ハ *Latin, diurnum.*

コノ現象ヲ扱ツタノガ *Zetascismus* デ。
 第二部ハ歐洲諸言語ノ現状構造ヲ論ジテキル。
 ソノ後、彼ハスラヴ語トリタウ語ヲ研究シ、ソ
 ノ上ニ獨特ノ考ヲアラハシ、ソノ結果 1865年
 ニ、*Kirchen Slavischen* ノ形態論ヲ出シ、
 1855-6年ニカケ、リタウ語ノ
 コノ中ニハ文法ノミナラズ、民謡、童話ヲ含ム。
 新ラシイ材料トスヘル。

ソノ後、1861-82年ニカケ 彼ノ有名ト書ガ
 アラハレタ。ソレハ

"*Compendium der vergleichende Gram-
 matik der Indogermanischen Sprachen*"

4版 1876年

デアル。印歐語ノ全体ニワタル視点ヲ論ジタガ
 ソノ中ニ印歐語ノ語、断片ヲ实例トシテ用ヒテキ
 ル。ソノ他ニ "*die Deutsche Sprach*"
 (1863)ガアル。コレハ *Compendium* ノ簡易
 化シタモノデ、ソノ緒言ニ於テ印歐語ノ一般原則
 殊ニ *German* 語族ニツイテ説明ヲ加ヘタ。

然ラバ彼ノ傑作ノ *Compendium* ハ如何ニ説
 クカ。尤ヅ彼ハ言語學ハ自然科学ニ肩スルコトヲ
 強調シタ。ソレハ彼ニ攻撃サレタ。ソレカラ、言

(88)

話ノ構造ヲ三種ニ分ケタ。

1. *Isolierende Sprache*. 孤立語デ、語根が変化シナイデ並ンテナルモノ。支那語。
2. *Zusammenfliegende Sprache*. 膠着語。変化シナイ語根ガアツテ、ソレニ他ノ語根ヲ加ヘル。シカモソレハ *punctuation* デアルモノ。日本語。
3. *Flektierende Sprache*. 歐洲語。屈折語。

コノ三ツハ彼ニヨルト、三ツノ語ノ發達ヲアラハスモノデ、1.ガ最モ原始的ナモノデアルト考ヘル。構造ノ上ノ區別ヲ發達ニ關係サセタ。ソシテ後ノニツガ完全ナ形ヲモツモノト考ヘタ。コノ考ヘハ間モナク破レタ。

又、彼ハ言語ノ發達ヲニ階段ニ考ヘテキル。

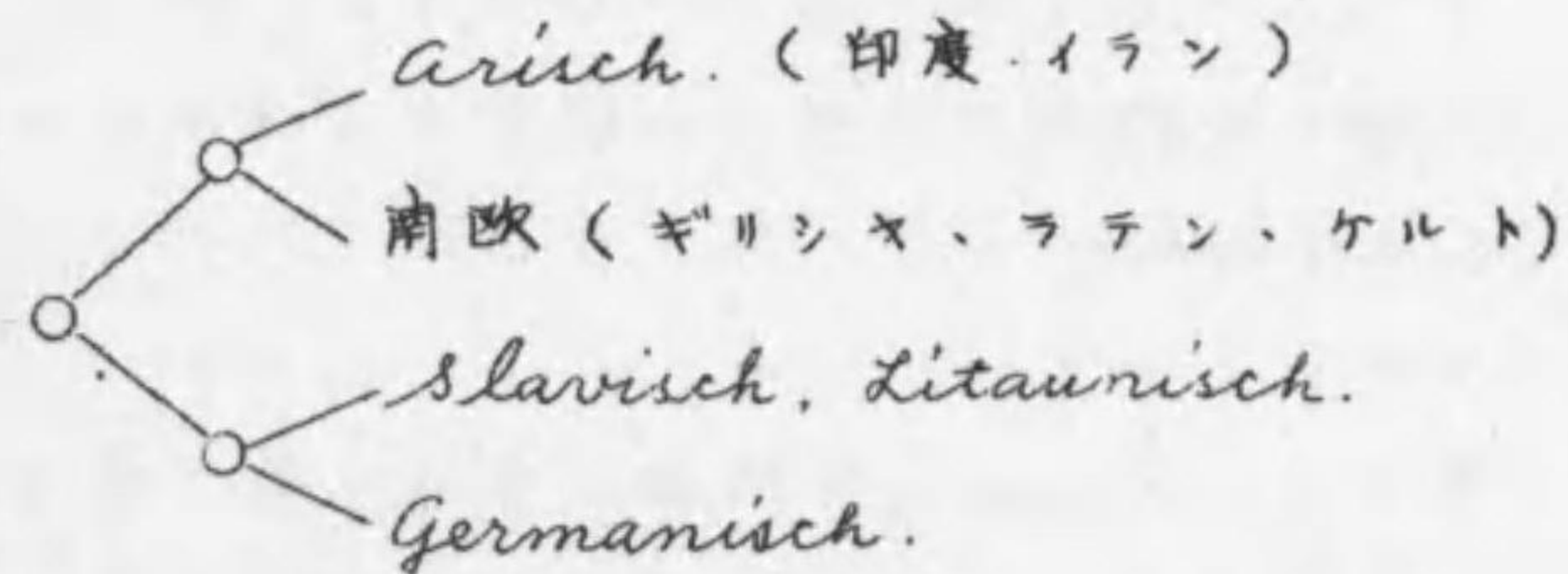
1. ハ言語ノ發達時代。コレハ有史以前。
2. ニナルト言語ガ發達シ始メル。コレハ歴史時代デ、後世ニ於ケル言語ノ変遷ハソノ墜落デアルト考ヘテキル。

コレモ爾モナク攻撃サレタ。

ソレカラ又、歐洲語ノ親族關係ヲ表ハスタムニ、系樹說 *Stammbaumtheorie* ヲ説イタ。即

(89)

チ、印歐語ニハ初メスベテニ共通ナ *Stamm* ガアリ、ソレガニ分シテ、ソノ分レタニツガ又ニツニ分レルガ。根本ハ一ツデアルト説イタ。



有名ナ學說デアアルガ非難サレタ。ガ、カクシテ、歐洲語ヲ一ツノ派ニ立テ返ラセヨウト考ヘテキタト思ハレル。

コノニ *Bopp*, *Schleicher* ノ意見ヲ比較スルト、色々ノ点ニ於テ異同ガアル。以テキル所カラ見ルト、印歐語ノ本末ノ形ニ關シテ、次ノ如キ解釈ノ類似ガアル。

1. 印歐語ノ語根ハ元々一ツノ音節カラ出来上ツタモノデアルト説。
2. 語根ハ動詞的ナモノト、代名詞的ナモノニ分ケ得ルト云フ点。
3. 動詞、名詞ニアル語尾ハ、元々、皆多クハ

独立シタ語根カラ出タモノデアツテ、ソレガ語幹ニ附加セラレタモノデアル。

一方又ニ人ノ間ニ違ツタ点ガアル。第一ニ Bopp ハ物事ヲ大掴ミニ觀察スル傾向ガアルガ、Schleicher ノ方ハ何デモ規則ヅメテ行ク傾向ガアル。

第二ニ、Bopp ハ音韻論ノ方ニハ餘リ重キヲオカナカッタガ、Schleicher ノ方ハ重ソジタ。

第三ニ、Bopp ノ方ハ印歐語ノ起源ヲ Sanskrit ニ求メ探トスル傾向ガアツタガ、Schleicher ノ方ハ必ズシモ Sanskrit ダケトハ限ラズ、アル古イ形ヲソナヘタ前ノ假想的源始語(印歐語)ノカラ分生シタモノトシテ、イロイロノ言語ヲ比較シ、Ursprache ヲ再建セントシタ。

例ヘバ第三ノ例トシテ Schleicher ハ

Sanskrit ajras = ギリシヤ agros
= ラテン ager
= ゴート akros

(“Acker”) 意

コノ事カラ如何ナル Ursprache ヲ作ルカト云フト、彼ニヨルト、コレヲ、中、ゴートノ方ノ

ハ g デアツタ。ソシテ nominative ノ記号トシテ s ガアリ、コノ s ノ前ニ a ガ附加セラレタモノデアル。ソレデアルカラ、ゴートノ元ノ形ハ * agras ト云フ形ニナラネバナラヌ。*ノ記号ハ現存ノモノデハナク、古イ假想的ノ語ト云フコトヲ意味スル。ソノ後モ使用サレテキル。

Latin ノ方ハ又如何ナル(古イ形ハ)モノカト云フニ、* agras 又ハ * agros カラ出タノデアル。コレハ greek ノ agros ニ一致スル。Oト aノ差異、 agras * agras.

ソレカラ Sanskrit ノ j ハ、古イ形ハヤハリ g デアツタラウ。従ツテ、コレヲ、点カラ綜合シテ見ルト、 agras ト云フ形ガ各々ニ共通デ、コレガ aker ト云フノガ Indo German ノ古イ形デアルトスル。コノ様ニ Ursprache 源始語ヲ再建セントシタ。Bopp ノ單ニ Sanskrit ガ一番古イトスルノトハ異ナル。

更ニ Schleicher ノ再建シタ Ursprache ハ果シテ正シイカドウカト考ヘテ見ルニ、ソレハ單ナル假想的ノモノオアリ、彼ノ到達シタ Ursprache ノ原型ハ Schleicher ガ言語ノ發達、下落ノ境界ニ立ツ様ニモノデアツタ。彼ハ源始語

ノ再建ヲ餘リ簡單=機械的=考ヘ、抽象的デアツ
カタメ、事實上ノ言語ノ性質ヲ無視スルヤウニナ
ツタ。即チ無理ナ形ヲ作ツタ。例ヘバ父 *father*

ハ、	<i>Sanskrit</i>	<i>pitā</i>
	<i>Greek</i>	<i>pater</i>
	<i>Latin</i>	<i>pater</i>
	<i>Gothic</i>	<i>fadar</i>
	<i>Altish</i>	<i>faōir</i>

コノ場合、歐洲語ノ何レヲ見テモ *nominative*
ノ形ガ付イテキナイ。Schleicherノ云フ様
ニガナケレバナラマノタガ、實際上ニハガ
アラハレナイ。コノ事實ニ基クト、コノ共通ノ
語根ハオソラク、**patar*、**patā*デアラウ
ト誰デモ考ヘルガ、彼ハアクマデ自説ヲ主張シ、
コノ形ノ他ニ、**patar-s*トシテ、コレガ
*Grundform*デアルトシタ。事實ガアツテモ、
事實ヲマゲタ様ナ所ガアル。

又、印欧ノ源始語ニ源始母音ガ幾ツアツタカニ
ツイテ Schleicherハ單母音トシテハ *a, i, u*
ノ三母音デアツタトスル。コノ彼ノ考ヘハ、
ヤハリ *Sanskrit*ニハ三ツノ主母音ガ存在
シ、ソノ本質ハ短イ *e, o*ガ *Sanskrit*ニナ

カツタコトオラ、コノ様ニ考ヘタ。

又一方 *Grimm*ガ *German*語ノ古イモノニ
ハ三ツ以外ノ母音ハナカツタト説イタ。ソノ論ニ
基イタモノデアアル。

Schleicherハスコノ三ツ以外ニ、飛進ノ上カ
ノ第一ニ次的母音ヲ認メテキル。即チ、

1. \bar{a} ($a+a$), ai , au ト云ツタ組合ノ仕
方。更ニ、
2. \bar{a} ($\bar{a}+a$), \bar{ai} , \bar{au}) 如ク組合セラ
レルトシタ。

コノ様ニ組合サレルコトヲ *Steigerung* ト云
ツタ。コノ様ニ式ノ下ニ論ジテキルガ、事實上ノ
取扱ニハ必ずシモコノ理論ニ一致セズ、場合ニヨ
リ勝手ニ理論ヲ変更シタ。コノ源始母音ニ影響ヲ
映ヘタ。

以上ノ様ニ Schleicherノ自説ハ當時ノ言語
學ノ方面ニ各種ノ影響ヲ映ヘ、ソノ功績ハ著シイ
ガ、一方當時ノ學者カラ次第ニ反對ノ聲ヲアビセ
ラレル様ニナツタ。

コノ様ニ Schleicherニヨリ平面ニ開カレタ言語
學ハ新ヲタナ活躍ヲスル様ニナツタ。即チ、若イ
言語學者ガ澤山アラハレタ。

- Johannes Schmidt (1843-1901)
 August Leskien (1840-1916).
 スラヴ、リタウ
 B. Delbrück (1842-1922)
 Wilh Scherer (1841-1886)
 ドイツ語、歴史
 August Fick (1833-1916)
 Herm. Osthoff (1847-1909)
 Karl Brugmann (1849-1919)
 Sophus Bugge (1883-1907)
 Karl Verner (1846-1896)
 Michel Bréal (1832-1916) フランス
 G. L. Ascoli (1829-1907) イタリア
 W. D. Whitney (1827-1894) アメリカ
 Max Müller (1823-1900) イギリス

第七節 新言語學の發生

次 = Schleicher の著説ハ當時トシテハ確
 カニ新味ヲオビテキタガ、一カソレニハイロイロ
 の不可解ナ点ガアルトイロイロ評論ガ加ヘラレ。

19世紀ノ末ニナリ、新ラタナ研究法ガ唱ヘラレ
 タ。ソレハドイツヲ中心トシテ起ツタ Jung-
 grammatischer (neogrammatischer) 一派、
 入デ、前、Brugmann, Osthoff 等ガ、コ
 ノ派ニ屬スル。

コノ新言語學者、説ク所ハ勿論言語ノ心理學的
 方面ニ基礎ヲオクモノナルガ、ソレノミナラズ
 言語ノ歴史的事實ヲ廣ク比較研究シテ祖語ヲ再建
 スルコトニアツタ。Bopp や Schleicher ガ
 考ヘタ動詞、名詞、語尾ハ如何ニ發達スルカト云フ
 動詞名詞ノ語尾發達論。即チ、語尾ハ独立ノ語根カラ
 生ジタトスル説ハ、ドコマデ本當ナルカ。勿論
 コレヲ語尾ノ中ニハ語根カラ変化シタモノガアラ
 ウガ、スベテガコノ理デ説明サレルカドウカト云
 フコトガ第一ノ疑問デアツタ。コレヲノ人々ハ我
 我ガ言語變化ノ本質ヲ知ルタメニハ

1. ソノ言語ヲ話ス人類ト云フ対象ヲ忘レテハナ
 ラヌ。狭ツテ言語ハ人類ノ社会ニヨリ影響サレ
 ルコトが大キイカラ、單ニ之ヲ自然科学的ニ見
 ルコトハアヤマリデ、ヨロシク心理學的ニ研究
 シナケレバナラヌトスル。

2. 各々ノ言語ニハソレゾレノ特殊ノ事情ニヨリ

(90)

遠ツタ言語ヲ發生スルコトガ多イカラ、發展狀
態ヲ完全ニスルタメニハ、各々ノ言語ニツイテ
詳細ニ歴史的研究ヲ遂ゲルコトガ必要デアルト。
コノニツノ立場ヲ明ラカニシ、コノ派ノ人ハ語ノ
*flection*ヲ *Bopp* ヲ *Schleicher*ノ *flec-*
tion theory ガケテ説明シ得ルモノデハナク、
モハヤ語根、語尾ニ分割出来ヌ構成法ガ古クカテ
存在シタト論ジ、尚、言語構成上ノ変遷ニハ心理
的類似 *analogy* ト云フカガ大キイ作用ヲナス
モノダト論ジタ。コノ *analogy*ノ理論ハ、コノ
人々ノ以前ノ時代ニモ認めラレテキタガ、多クノ
場合、*falsche Analogie* 間違ツク類似ト呼
ビ、ニツノ例外的現象デアルト見做サレテキタガ
新ラシイ派ハコレヲ正位ニオキ、コレヲ重要視シ
タ。ソレカラヌ、コノ派派ハ音韻ノ研究ニ非常ニ
貢献シタ。

大体 *Schleicher* 等ハ印欧ノ源始語ノ音韻組
織ハ極メテ簡單ナモノデアツタト論ジテキタガ、
今度ハ昔ハ複雑ナモノデアツタコトガ明ラカニナ
ツタ。例ヘバ子音ニツイテ見ルト、*Schleicher*
ハ印欧ノ源始語ニハ *Gutturales* 喉ノ音トシ
テハ、*k* (*kh*)、*g* (*gh*) 等ノ同性異ノ音ガ

(91)

アツタノデ、コレヲハ後西音ト云フ一音ノ中ニ入
レラレテ一種ノ音デアツタ。差異ハソレゾレノ場
合ニ基キ、元ハ一種ノモノダト論ジタガ、ソノ後
イタリーノ *Ascoli* ヲ *Fick* 等ノ研究ノ結果
後西音ハ一種類ノモノダト云フ論ハ認めラレナク
ナリ。コレヲノ相違ハ印欧語ノ古イ時代ニ既ニ存
シタモノデ、深イ根拠ヲ有スルコトガ明ラカニサ
レテ来タ。即チ、印欧ノ *Gutturales* ハ三ツ
ニ分ケ得ル。

1) *Greek, Latin, Celt* デハ *k* (*g*)
デアラハレ、*German* デハ *k* (*ch*) トナ
リ、*Sanskrit, Litau* デハ *ś* トナ
ト云フ *zischlaut* ト云フ音デアラハレル。
コノ様ナ一ツノ組ガアル。例ヘバ *Latin* デ
Latin. centum *ガ *German hundred*
Sanskrit satam
Litau szimtas

2) 第二ノ組トシテハ、*Greek, Latin, Altis-*
ländisch デ *q* (*g*) - *Skr. Lit. k* (*g*)
デアラハレル。例ヘバ
Lat. quad - *Altisl. kvat* *Skr. q* ハ
kas デアル。

(98)

3) スズチノ言語ニ於テ *k* (*g*) デアラハレル
モノデアル。

コノミツノ差異ガ昔カラアツタコトガ明ラカニ
ナツタ。コノ音ノ種類カラ *Greek, Latin, Celt*
等ガ出デ。コレラ *Greek, Latin, Celt, Ger-*
man ノ諸言語、即チ南歐ノ語ヲ *Centum*
sprache ト云フ。ソレ以外ノ *Sanskrit* ヤ
Litauisch ヲ中心トスル語ヲ *Satem Sprache*
ト云フ。コレハ子音ノ例デ、子音ハ昔ハ簡單ナモ
ノデハナカツタト云フコトガ分ツテ来タ。

母音ニ関シテハ、*Schleicher* ノ頃マデハ、

Sanskrit ノ *a* ガ、他ノ語デ *e* (*i*) ニナツタ
リ。 *o* (*u*) ニナルコトカラ、*a* ガ印歐ノ原始的
音デアルト考ヘラレテキタ。コノコトヲ一層明ラ
カニシタノガ *G. Curtius* ト云フ入デアル。即
チ彼ハ、歐洲語ノ *gemein europäisch* ハ先ヅ
第一番目ニ *a* ト云フ母音ガ *a* ト *e* ニ分裂シ、ソノ
後ニ至リ、ソレゾレノ言語ニ於テ *o* ガアラハレテ
キタト論ズル。

コレヨ先、*Grimm* ノ説ク所ハゲルマン諸語ノ
母音ハ前述ノ如ク *a, i, u* ノミツデアルト主張
シ、世間ノ人モ信ジテキタガ。コノ *Curtius*

(99)

ノ説ガアラハレ。 *e* ト云フ母音ガ古イ歐洲ノ諸言
語ニ共通ニ存在シタコトヲ証明シタタメ、*Grimm*
ノ説ハ非常ニ打撃ヲウケタ。例ヘバ *Got. itan*
(*eat*) ノ *i* ガ、*nord* デハ *eta* ニナツテ居リ。
Got. ノ *i* ハ *nord* ノ *e* ヨリハ古イモノデアルト
ト *Grimm* 等ニヨリ考ヘラレテキタガ、今度ハ
ソレトハ全ク反対ニ *eta* ノ *o* ガ *Greek, Latin*
ノ *edo* ニ *correspond* スルモノデ、*Got.* ノ
i ハ却ツテ *e* カラノ変化デアル。ト云フコトガ
明ラカニサレテ来タ。コノ様ニ母音ニ於テモ研究
ガ度ツテ来タ。*Curtius* ハ母音ノ連歩ノクメニ貢
献シタガ、マルデ不明ナ点ガアツタ。即チ、何故
a ガ場合ニヨリ *a* - *e* トナリ、*o* トナルカト云
フ理由、及ビソレガ正シイカ否カト云フコトガ問
題トシテ残ツテキタ。

コレニツイテハ我々が先ヅ豫備的ニ考ヘネバナ
ラヌコトハ、子音ノ *Paratarisierung* 口蓋音
化ト云フ現象デアル。即チ、*Sanskrit* ニ於テ
モ、*k, g* ト云フ音ガ、(*a* トカ *o* ト云フ) 後方
母音ノ前ニアル場合ニハ、元ノ *k, g* ガ *kh, gh,*
g, gh, デアラハレルガ。前方母音 (*i, e, j*)、
前ニアル時ニハ、口蓋音 (*Palatar*) ノ *c, ch*

が *j*, *h* トナル現象ガアル。コノ事実カラ推シテ逆ノコトガ考ヘラレル。コノ *a* = 歐洲ノ語デ *e* トナツテキル場合ニハ、必ず、ソノ前ニハ、*c* ヤ *j* ト云フ *Palatar* ノ音ニナツテアラハレル。又、ソレニ反シテ、ヨーロッパノ語デ *a*, *o* トナツテアラハレル場合ニハ、*h*, *g* ガアラハレテ来ルト云フコトガ明ラカニナツテ来タ。即チ、

Palatarisierung ノ理論カラ、*a* ガ *e*, *o* = ナル理論ガ明ラカニナツテ来タ。

更ニ、音韻変化ニ関スル重要ナ學説ガ、デンマーク人ノ *Verner* ニヨリ發表サレタ。

ゲルマン語デハ *Anlaut* ノ音、*p*:*t*:*k* ガ、規則的ニ *f*, *p*, *h* = ナルコトハ、*Rask* ソノ他ニヨリ明ラカニサレタガ、*inlaut*, *auslaut* ノ場合ヲ考ヘネバナラマ。即チ *inlaut* = 於テ、*p*, *t*, *k* ハ必ずシモ、*f*, *p*, *h* = ナルト

ハ限ラズ $\left\{ \begin{array}{l} -f- \quad -p- \quad -h- \\ -b- \quad -d- \quad -g- \end{array} \right.$ ト云フニ通り

ノ場合ガ起ツテ来ル。例ヘバ

Latin *pater* ガ Got. デハ *fader* トナリ、
mater *modar*
frater *broper*

トナル。

コノ現象ガ何故起ルカ、ソノ理由ガ *Verner* ノ時代マデ不明デアツタガ、彼ハイロイロノ語カラ帰納シ、コレハ古ノ *accent* ノ置場所ニヨリ生ジタトスル。コノ発見ハコノ人ノ非常ナ功績デ、*Vernerische Gesetz* ト呼バレル。

例ヘバ (1) (2) (3)

Lat. skr. *pitár* *mátár* *bhrátér*

Greek. *patér* nom: *mētér* *phrátór*

Got. *fadar* *modar* *bropar*

前 = *accent* ノナイ時ハ、*a* カ *e* デアラハレル。

(2) = 於テハ本當ノ *accent* ハ *nominative* = 於テアラハレズ、*accusative* = 原形ガ出テキルトスル。即チ *mētira*。故ニ、ヤハリ *d* デアラハレテ来ル。トノ前 = *accent* ガアル。

コノ現象ヲ見ルト *Got* 語デハ原音、*t* ガ *d*, *p* = ナルガ、コノ摩擦音ニナルノハ、*t* ノ前 = *accent* ガオカレタ為デ、*t* ガ *d* = ナルノハ、ソレハ、ソノ直接前 = *accent* ガオカレナイ場合デアルト説明シタ。トトカ *h* ト云フ他ノ場合デモ同様デ、即チ *p* ガ *f* ヤ *h* = ナツタリスル場合モヤハリ同様デアル。ソノ前 = *accent* ガ

(102)

ナイト f トナリ、アレバ 長 トナル。又、長ガ
短ヤ g トナル、ハ破裂音アナク摩擦音ノ g ト
云フ條件ガアルガ、原音 長ノ前 = accent ノナ
イ場合、長デアアル。アレバ g トナツテ表ハレル。

S ト云フ原音ガ S トナリ、Z トナル。コレモ
accent ガナイトス。アレバ Z ニナル。Nord.
Göt. デハ更ニ長音ニ変化スルコトガアル。

コノ様ニ Werner ノ規則ハ前ノ説ノ尺リナイ
所ヲ補ツタ。コノ様ニ音韻ノ研究ガ進シタ。

Junggrammatiker ハ音韻変化ノ歴史的研
究ヲシタ結果音韻変化ノ法則ヲ発見シテ、ソレヲ
ヤカマレク云フ様ニナツタ。ツマリ、コレヲノ人
人ハ、次ノ標語ヲ以テ叫ンダ。

即チ、同一ノ音ハ同一ノ時代及ビ同一ノ場所、シ
カモ同一ノ條件ニ於テハ必ズ同一ノ結果トナツテ
アラハレル。ト。音韻規則ハ例外ナシ。ト。ソシ
テ、モシ事実トシテ例外ガアルトスレバ、ソレハ
別ノ factor デ analogy ト云フ心理的作用
ニ基クモノデアアルト云フ。

コノ派ノ主張スル所ハソノ主義ニ於テ立派ナモ
ノデア、言語學ノ進歩ニ大イニ役立ツタガ、ソノ音
韻ノ法則ヲ餘リ嚴格ニ解決セントシタコト、又言

(103)

語ノ歴史的研究所云フコトニ餘リ重キヲオイタト
云フ欠点(言語ハ言語史ノ研究ヲヨイ)ガアルタ
メ、コノニ新ラタニ言語研究ノ建直シト云フコト。
即チ総論ヲ述べタ様ニ哲學的・心理學的研究、社
會學的研究ガ、最近ニ起ツテ来タ。

Darmesteter.

Delacroix

Fer de Saussure.

meillet Brunot

Vendryes

Bally

Jespersen.

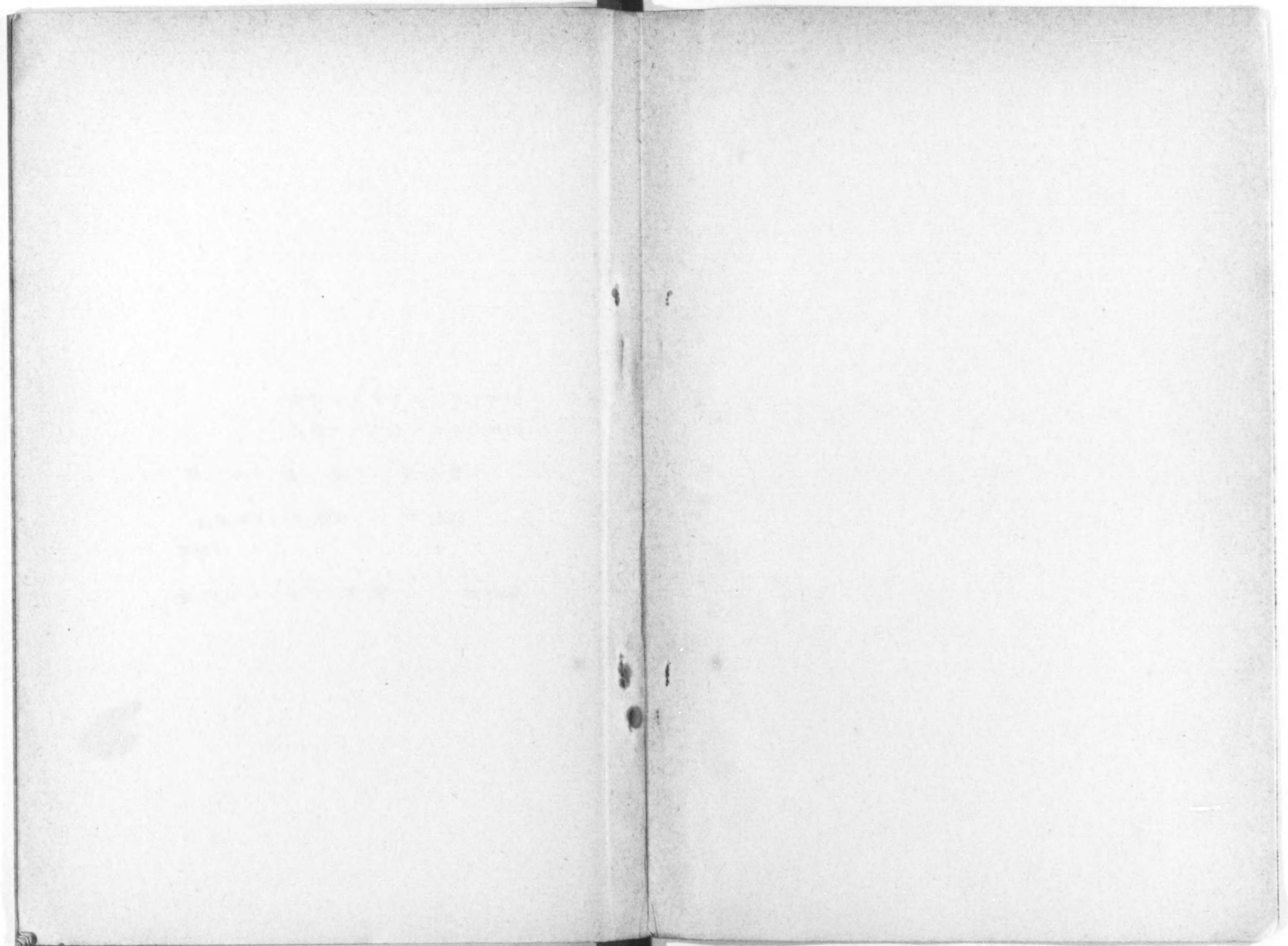
昭和十年十二月廿五日印刷

昭和十年十二月廿六日發行

責任者 金 森 豊

印刷所 東京プリント刊行會
印刷部

發行所 東京プリント刊行會



(¥ 0.70)

特223

300

終